

# Vol.28

Graduation design presenter list '21

Suzuki Shingo	Yuko Homma	Maya Sekimoto
Hirata Suzumi	Misa Yoshida	Shoichiro Fuku
Narumi Takashi	Koki Watanabe	Takuya Hotta
Nao Takahashi	Nazuna Kobayashi	Maiko Mikami
Daiya Taguchi	Hiroki Shiotani	Kawaru Murata
Kazuki Narumi	Shunsuke Enokata	Shunsuke Morita



# CONTENTS

2021年度 「北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集」  
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '21

subject	page	student no.	name	title			
卒業設計	4年生	02	4318124	嶋海圭祐 Keisuke Narumi	in the loop -複合化による循環型子育て支援- <2021年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品> <近代建築別冊「卒業制作2022」掲載作品>		
		06	4318215	塩谷拓希 Hiroki Shiotani	換骨奪胎真駒内 <2021年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品> <2022年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品>		
		08	4318117	高崎菜々美 Nanami Takasaki	いなりの坂寄合所 ~失われゆく歴史を継承する建築~ <2021年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品>		
		10	4318115	新保涼音 Suzune Shimpo	コア-新たな時間市場の創出- (共同作品)		
		4318129	本間結子 Yuiko Homma	農活 ~都市近郊農業と支援のかたち~			
		4318116	鈴木 陽 Hinata Suzuki	Terminal: 炭都終着			
		4318120	高橋幸緒 Nao Takahashi	<北海道卒業設計合同講評会2022 審査員賞>			
		13	4318122	田口堤也 Daiya Taguchi	擁壁が繋ぐ内と外 ~擁壁内部空間の新提案~		
		4318139	吉田光沙 Misa Yoshida	雪が集う里-地域住民と共生するスキーリゾートの提案-			
		4318140	渡邊光春 Koki Watanabe	原風景を覗く-都市緑地の活用と体験学習の場の創出-			
		4318211	小堀奈津菜 Nazuna Kobori	駅 ~札幌駅北口の地上と地下~ (共同作品)			
		4318231	三上舞子 Maiko Mikami	屯田改拓 ~屯田町の開拓的要素から導くまちの再編~			
		4318216	柴田駿介 Shunsuke Shibata	歩く駅前空間 ~地域に寄り添う交通拠点施設の設計~			
		4318219	関本真矢 Maya Sekimoto	機能分散化によるまちの顔づくり-西区琴似における行政・集会所施設の設計-			
		4318226	指井彰一郎 Shoichiro Fukui	交わす脈ととまる街 ~漁業産品に従事している外国人の拠り所を地域と結び交流を促す~			
		4318229	堀田達也 Tatsuya Horita	水を紡ぐ科学館-水と人との密接な関係の再発見-			
		4318234	村田 聖 Kakeru Murata	感染が交流か-アフターコロナ社会を見据えた雑居ビルのあり方-			
		4318235	森戸駿輔 Shunsuke Morito				
		23	2021年度卒業設計提出者リスト				
		造形演習 I	1年生1学期	24	4321232	南 祐那 Yuna Minami	問題用紙をモチーフとした平面構成
				4321215	武永蒼依 Aoi Takenaga	問題用紙をモチーフとした平面構成	
				4321223	西垣優衣 Yui Nishigaki	問題用紙をモチーフとした平面構成	
				4321112	佐藤智哉 Tomoya Sato	問題用紙をモチーフとした平面構成	
25	4321213			鈴木 萌 Moe Suzuki	季節をテーマとした自画像		
4321212	渋川亜勉 Atomu Shibukawa			季節をテーマとした自画像			
4321101	有村萌花 Moka Arimura			季節をテーマとした自画像			
4321106	奥村 怜 Ryo Okumura			光をテーマとした平面構成			
4321120	高溝ありさ Arisa Takamizo			光をテーマとした平面構成			
4321235	山本大夢 Hiromu Yamamoto			光をテーマとした平面構成			
26	4321211			佐藤拓音 Takuto Sato	コラージュを主体とした平面構成		
4321132	室 杏佳 Kyouka Muro			コラージュを主体とした平面構成			
4321122	谷紗矢乃 Sayano Tani			コラージュを主体とした平面構成			
4321110	佐々木陸久 Riku Sasaki			コラージュを主体とした平面構成			
27	4321136	吉田拓海 Takumi Yoshida	身の回りのモノをモチーフとした細密画				
4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	身の回りのモノをモチーフとした細密画					
4321116	菅澤 翠 Midori Sugawara	身の回りのモノをモチーフとした細密画					
4321210	佐々木聖矢 Seiya Sasaki	建築と私をテーマとした立体構成					
4321231	真鍋孝輔 Kosuke Manabe	建築と私をテーマとした立体構成					
4321233	村中啓剛 Keigo Muranaka	建築と私をテーマとした立体構成					
空間デザイン 演習基礎	2年生1学期	28	4320230	中山 碧 Aoi Nakayama	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度		
		4320132	中田彩太 Ayata Nakata	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度			
		4320143	山田祥平 Shohei Yamada	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度			
		4320208	太田漢一 Koichi Ohta	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度			
		29	4320133	中村千陽 Chiharu Nakamura	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン		
		4320242	山下 建 Takeru Yamashita	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン			
		4320238	本山敦崇 Nobutaka Motoyama	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン			
		4320230	中山 碧 Aoi Nakayama	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン			
		4320147	渡邊竜馬 Ryoma Watanabe	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン			
		4320103	鮎田琢真 Takuma Ameda	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン			

subject	page	student no.	name	title		
空間デザイン 演習 I	2年生2学期	30	4320120	佐々木優真 Yuma Sasaki	カフェ・テラス	
		31	4320238	本山敦崇 Nobutaka Motoyama	カフェ・テラス	
		32	4320136	福田涼太 Ryota Fukuda	小課題「住宅をさがそう」	
		33	4320205	井上汎平 Kohei Inoue	小課題「住宅をさがそう」	
34	4320102	秋山果澄 Kasumi Akiyama	住宅			
34	4320214	木村凌雅 Ryoga Kimura	住宅			
空間デザイン 演習 II	3年生1学期	35	4319136	瀧田 葵 Yuda Aoi	デザイン・スクール	
		36	4319205	大畠悠介 Yusuke Ose	デザイン・スクール	
		37	4319118	鈴木瑛美 Eimi Suzuki	小課題「建築作品をさがそう」	
		4319202	池野瑠里子 Ruriko Ikeno	小課題「建築作品をさがそう」		
		38	4319118	鈴木瑛美 Eimi Suzuki	テナント・ビル	
39	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	テナント・ビル			
建築デザイン論	3年生1学期	40	4319202	池野瑠里子 Ruriko Ikeno	光の入り口	
		4318134	武者凌平 Ryohei Musha	camera obscura		
		4319205	大畠悠介 Yusuke Ose	海底0マイル		
4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	Light hideout				
空間デザイン 演習 III	3年生2学期	42	4319205	大畠悠介 Yusuke Ose	アート+建築=X	
		43	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	アート+建築=X	
		44	4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	電車通りの「みんなの家」	
		45	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	電車通りの「みんなの家」	
空間デザイン 演習 IV	4年生1学期	46	4318124	嶋海圭祐 Keisuke Narumi	大通公園前の図書交流館	
		47	4318216	柴田駿介 Shunsuke Shibata	大通公園前の図書交流館	
		48	4318211	小堀奈津菜 Nazuna Kobori	光と邂逅する建築	
		49	4318234	村田 聖 Kakeru Murata	光と邂逅する建築	
第13回 ガクナイコンペ 2021	全学年	50	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	1等賞 3年生 (共同作品)	
		4320246	渡辺倫大 Tomota Watanabe	1等賞 2年生 (共同作品)		
		51	6320102	津邊憲成 Kensei Watanabe	2等賞 大学院修士2年生	
		6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	3等賞 大学院修士2年生		
		4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	学年賞 1年生		
		4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	学年賞 3年生		
		4318117	高崎菜々美 Nanami Takasaki	学年賞 4年生		
		52	6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	第46回「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞 修士2年生	
		4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	第46回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞 3年生		
		6320102	津邊憲成 Kensei Watanabe	第46回「北の住まい住宅設計コンペ」奨励賞 修士2年生		
53	6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	第25回「ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト」優秀賞 (共同作品) 修士2年生			
6320102	津邊憲成 Kensei Watanabe	第25回「ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト」優秀賞 (共同作品) 修士2年生				
4318117	高崎菜々美 Nanami Takasaki					
4318134	武者凌平 Ryohei Musha	[全国建築新人観2021] 100選入選 3年生				
4318134	武者凌平 Ryohei Musha	[全国建築新人観2021] 山田紗子賞 3年生				
2021年度 コンペ入賞作品	title 沼田町・JR石狩沼田駅舎セルフリノベーション	54	4318111	佐藤嵩太 Kouta Sato	4318137 山崎達矢 Tatsuya Yamazaki	
		4318113	佐藤貴慶 Takayoshi Sato	4318138 山本 愛 Mana Yamamoto		
		4318120	高橋幸緒 Nao Takahashi	4318215 塩谷拓希 Hiroki Shiotani		
		4318123	鉄川 結 Yui Tetsukawa	4318222 武山伶央 Reo Takeyama		
		4318125	嶋海佑真 Yusei Narumi	4318238 山下陽平 Yohei Yamashita		
		56	6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	現代社会における新たな私的領域の探求 ~北海道札幌市の都市と郊外における住居形式のケーススタディ~	
		58	6320102	津邊憲成 Kensei Watanabe	アクティビティから解く集合住宅 -北海道江別市野幌地区における新たな共有空間を持つ集合住宅の提案-	
		60	2021年度科目担当教員リスト			







Design Concept



Model Diagram 抜け空間

屋根を固定しない埠とりを持った「抜け空間」を計画した。開放的で空間は抜けているが機能は残っている。



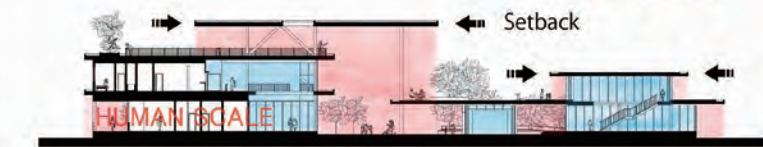
合理的な複合施設    ボリュームを分離する    隣の空間をデザイン

群造形と積層

群造形は全体を一体でありながら、異なるボリュームの集合として実数地全体をデザインした。各施設で異なる階高に合わせて屋根を調整させセットバックすることで圧迫感を軽減し、周辺環境との調和を目指した。また、屋根、テラス、デッキ、庭園など半外部空間により「都市スケール」と「ヒューマンスケール」が共存する建築を目指した。

URBAN SCALE

Setback



ヒューマンスケールから周辺環境の調和を図る。屋根は各施設のボリュームを調整する機能を行う。



ボリュームを分離し、隣接する各施設間の空間の連続性を高めることを目指した。

Facade Design 二面性



町外利用者の多い街道がある北側は、まちの賑わいや子育て支援などまちの取り組みを近隣の市町村に発信する機能も担っている為、視線を引くようなまとまりのある外構とした。一方、住宅地がある南側からは各施設単位でボリュームを分離し、周辺環境に馴染むような外構計画を行った。

Floor Plan 1F Plan 1/300



抜け空間の使いかた



2F Plan 1/300



抜け空間の使いかた



Open Space 半屋外空間



Event 非日常時の利用



広場では、お祭り・キッチンカー・移動図書館・トラック演劇・自転車レース・献血など様々なイベントに対応可能である。地域利用時(発表会やお遊戯会等)には、開放しエントランス広場までシームレスに繋がり、空間が一体化する。市民の多拠点で社会的身体スケールに配慮したまちのリビングのような建築空間である。また、各施設の休館日の際でも広場を解放することでコミュニティや交流を継続し、町民の居場所を提供する。

Vision 展望

要望として、利用者を最優先に考えた好望期から子育て期にわたる切れ目のない子育て支援により、この施設で生まれ育った子供が将来ここで働くような循環を生む。この町が子育て支援のプロトタイプとして地方創生に貢献出来る施設になることを目指す。

敷地面積	21596.97 m <sup>2</sup>
建築面積	2569.72 m <sup>2</sup>
延床面積	3896.99 m <sup>2</sup>
階数	地上2階
構造	鉄骨造 鉄筋コンクリート





2021年度北海道大学工学部建築学科 優秀賞作品  
2022年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品



てくてく真駒内

**真駒内地域とは？**

1972年札幌五輪に合わせて開闢された無量かぞゆ住宅地帯を有する地域。一戸建・公共団地の老朽化・少子高齢化・人口減少などの問題が顕著。札幌のまちづくり方針の更新から再整備が計画されている。

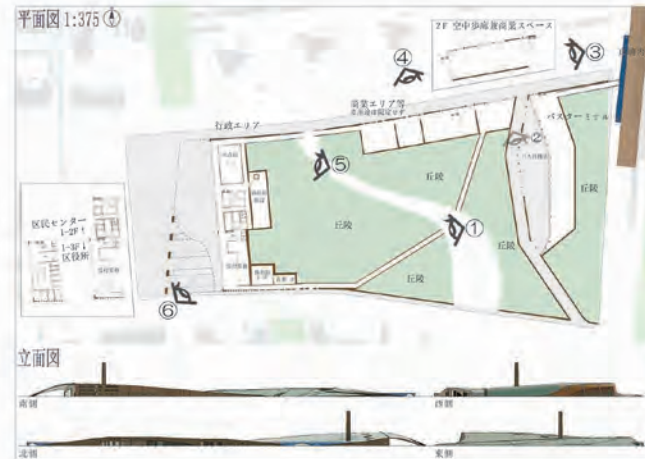
**根づく価値観**

真駒内では無量が行われ、多様な価値観が共存する。はじめての反対運動の発生する。日本版「バスター」の本拠地移設に真駒内のおが争がきっかけの反対運動が起これに。農地・牧場の風景を失いながらも「根づく」価値観を真駒内という価値観は失われずに引き継がれ継承され、街が発展していった結果なのではないだろうか。

**開発のたびに反対運動を引き起こす**

真駒内は、開発のたびに反対運動を引き起こす。農地・牧場の風景を失いながらも「根づく」価値観を真駒内という価値観は失われずに引き継がれ継承され、街が発展していった結果なのではないだろうか。

1972年 札幌五輪  
1946年 米軍駐留  
1876年 農場開拓











# コア

新たな時間市場の創出

## 背景と目的

北海道観光の現状として、夏季と冬季の観光客入込数に大きな差がある。夏季は避暑地として国内外から多くの観光客が北海道を訪れるが、冬季の観光客数は夏季の半数以下となっている。加えて、観光地域において観光客の活動時間が12時~15時に集中しているため、季節・時間によって観光客数に差が生じている。近年では、旅行先で製品を購入して使用することなどのモノ消費に比べて、食事や温泉、自然体験などのコト消費への満足度が高まっていることから、地域資源を活用した観光地づくりを考える。これらの北海道観光の課題に着目して、観光資源の豊富な北海道支笏湖支笏湖畔に位置する商業施設の設計を行った。

## コンセプト

観光客を最初に迎え入れ、そこからまた出発する地域の核(コア)となる施設。支笏湖畔の玄関口に位置しているため、観光客の支笏湖滞在の拠点となり、ここからアクティビティに出かけたり、ビジターセンターに支笏湖を取り巻く自然環境を学びに行く。そしてまた、ここに戻ってレストランやテラスで一息つく。人により異なる行動パターンに寄り添い地域のコアとなる存在を目指す。

## 敷地 千歳市支笏湖国立公園

敷地面積/2004㎡  
敷地全体高低差/3600mm  
計画敷地は傾斜地に立地する支笏湖温泉街の商店街としており、バスの停留所や駐車場、湖に近い広場、アクティビティ利用のための桟橋、また、温泉ホテルである鶴舞リゾートや支笏湖ビジターセンターの間に位置するため各方向からのアクセスが考えられる。現在、対象敷地である支笏湖温泉の商店街エリアは飲食、物販、アクティビティ体験のガイドハウス、などが建ち並んでいるが、景観の観点からみると奇抜な配色が目立つため、周辺の施設や自然との一体感が見られないことが問題として挙げられる。



# 農活

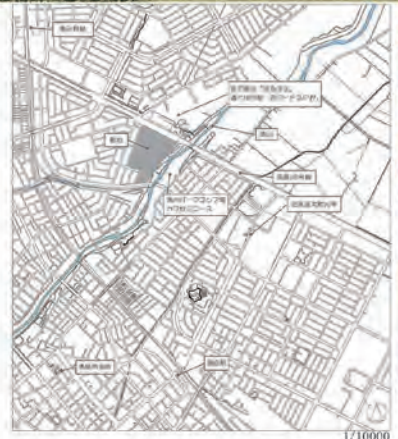
~都市近郊農業と支援のかたち~

## 農業と設計の背景

現在、農業は「農業従事者人口の減少」、「農業従事者の高齢化」、「新規参入のハードルの高さ」が問題となっており、慢性的な人手不足が発生している産業である。そこで私は、スマート農業などの技術で解決することも大切ではあるが、若年層が農業に従事したいと思えるような体験を幼い時にすることや環境作りも大切なのではないかと考えた。人口の推移と中山間地域では少子高齢化、人口減少が都市に先駆けて進行している。その結果、山間農業地域から都市的農業地域へ人口の割合が増加する予想であり、農業支援の観点から都市近郊地域を敷地とした「生活」の一部に農作業が入るような施設提案をしたいと考える。

## 敷地

恵庭市中央公園(恵庭市中央町3丁目1-1) 恵庭市は市の約2/3が自然であり、残りの1/3に街が収まったコンパクトシティである。敷地は花の拠点「はなふる」道と川の駅「花ロードえい」向かいにある公園とする。平日の14時ごろに敷地調査を行ったが、道の駅は主婦の方や観光客、幼稚園などで賑わっていたのに対して中央公園は閑散としており利用者もランニングや散歩を行う、おおよそ50歳以上の方が多かった。敷地周辺の状況としては敷地周辺や恵庭市の住宅では家庭菜園や庭造りに力を入れている住宅が多くあり、家庭菜園や庭づくりに意欲的な市民が多い印象を持った。また国道から一本入ると車が通ることも少なく静かな住宅街といった印象であった。この敷地は「北北西」と「南南東」に風向が揃っており、やや南南東側の方が風の強い敷地である。今回は畑も計画するので国道側と西側の住宅街に土などで被害を受けないよう配慮が必要である。



## ターゲット

「将来的に農業に従事したい」  
「農業を日常的に楽しみたい」  
「観光で農業体験をしたい」  
という人をターゲットにする。





# 炭都終着

背景 | 近代化遺産の保存と活用の現状

欧米諸国

日本国内

計画の対象地域 | 北海道美瑛市東部

■鉄道発達と人口分布の変化

■écomuséeの可能性

FOCUS: A0 PURPOSE: アイキャッチをつくる

FOCUS: B1 PURPOSE: 炭住を展望する視点を設ける

■ペーヴメントのデザインメカニク

FOCUS: A8 PURPOSE: まちを再編し、コアを設ける

# 擁壁が繋ぐ内と外

~擁壁内部空間の新提案~

Perspective

擁壁内部

地下のようで  
地上のような  
人工のようで  
自然のようで  
内のようで  
外のようで  
擁壁に囲まれた暖  
昧な空間が交流を  
促す

車や人の動線が擁壁内  
部で完結しているため  
擁壁上部には自然性と  
公園性を兼ね備えた空  
間が広がる

からは外に ← からは  
擁壁内部に繋がる窓  
により、昼は外の光を  
夜は内の光を擁壁内部  
に取り入れる

Problem 1 交流

【コロナ禍で加速する地域との孤立】

インターネットの普及、コロナ禍により拍車がか  
かった近隣住人との交流減

井戸端会議、車庫でのBBQもめっきり見なくなり、  
寂しさを感している方も多いのではないでしょうか。

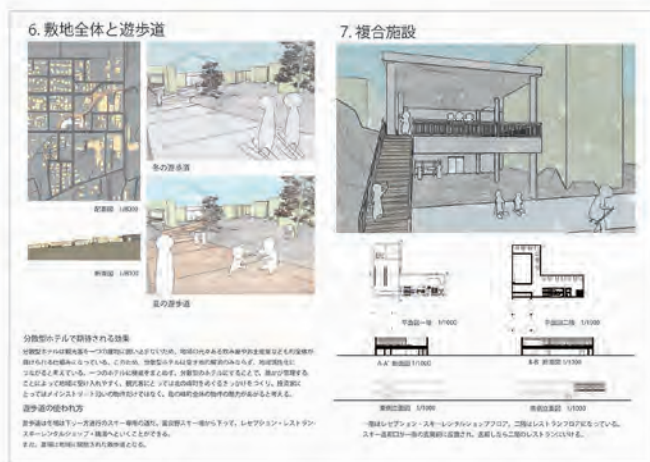
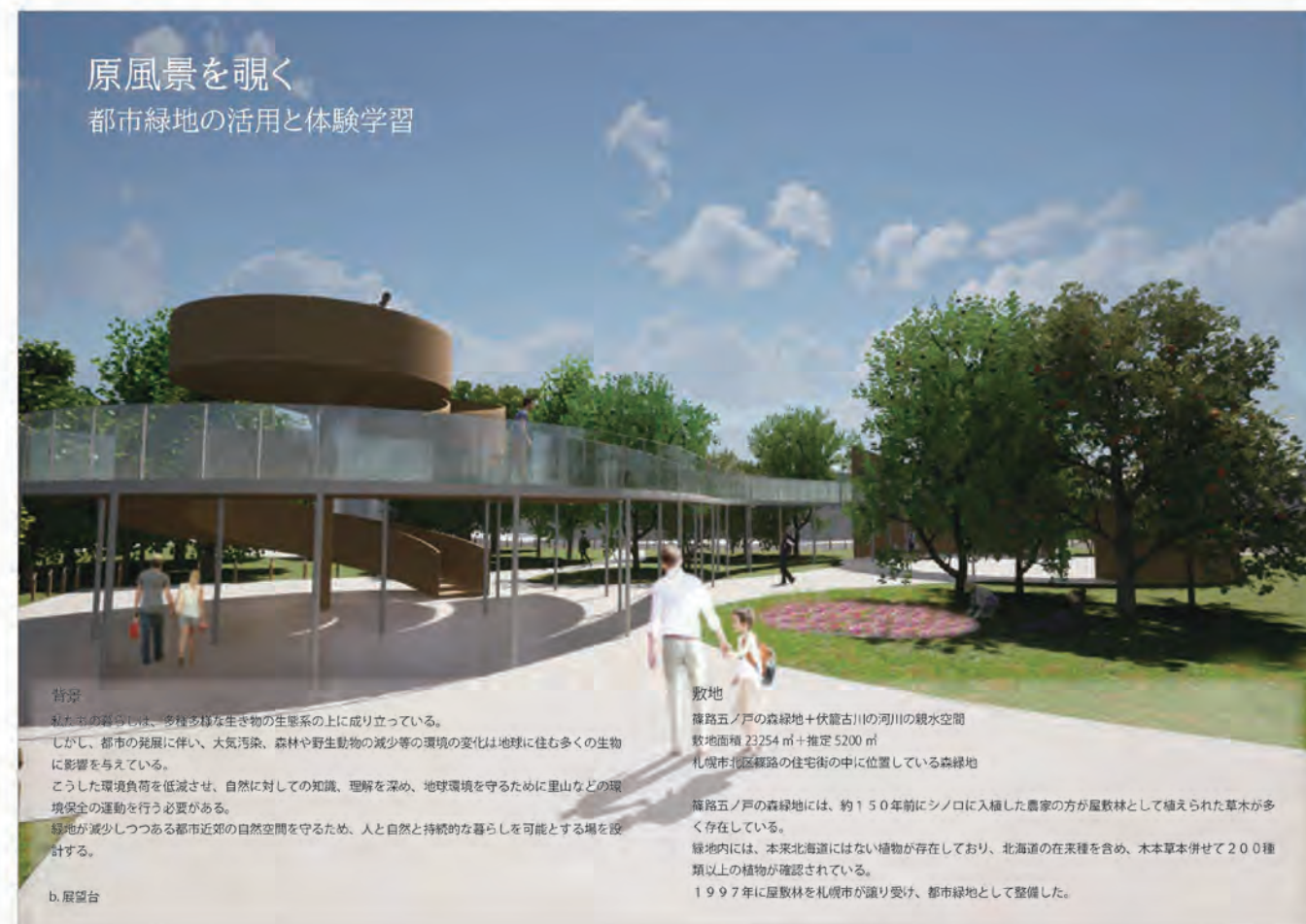
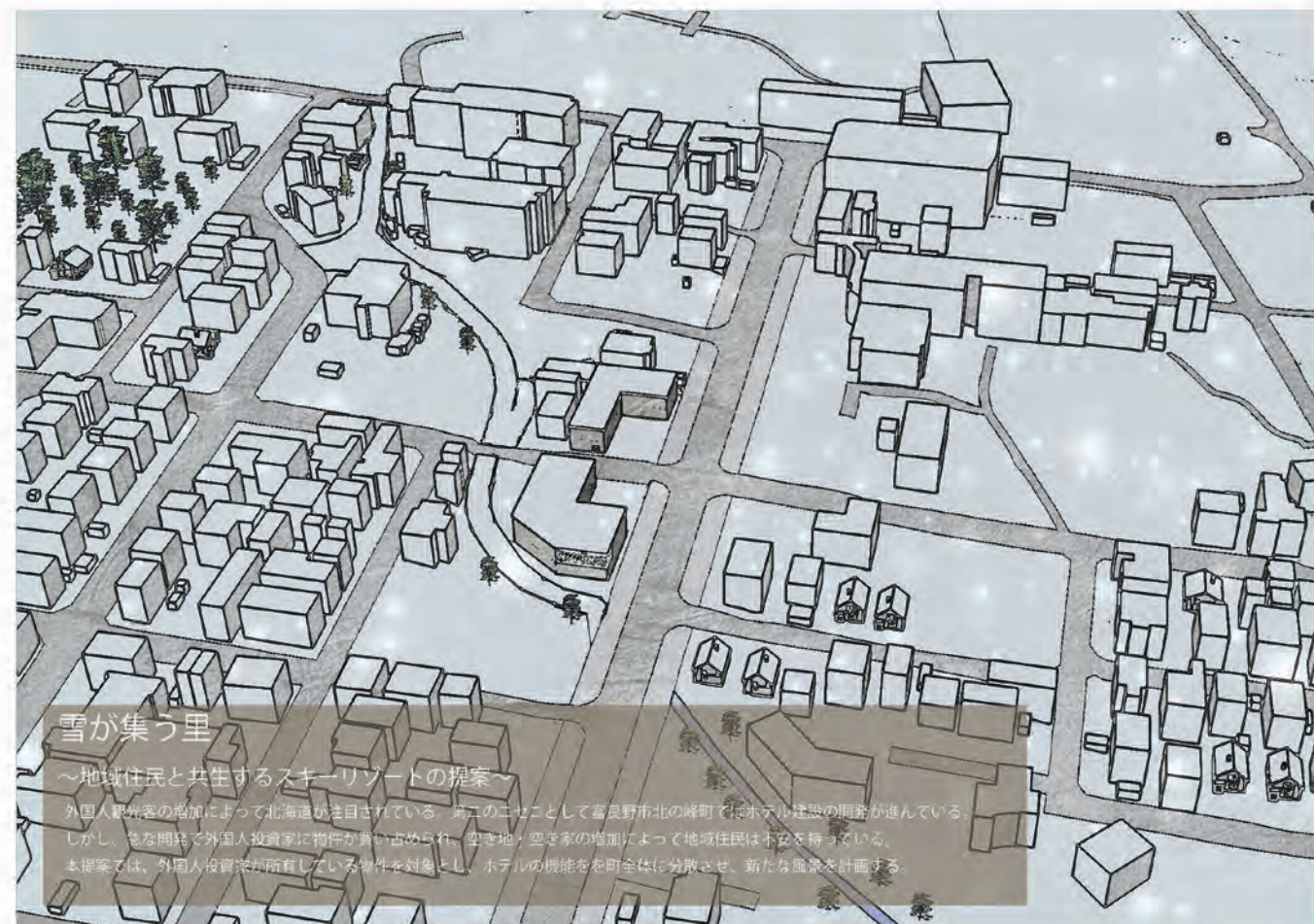
こんな生活に慣れていくにつれてコロナが収まった  
後も、地域としての交流が今後なくなってしまうの  
ではないかという一種の危機感を感じています。

気づき 1

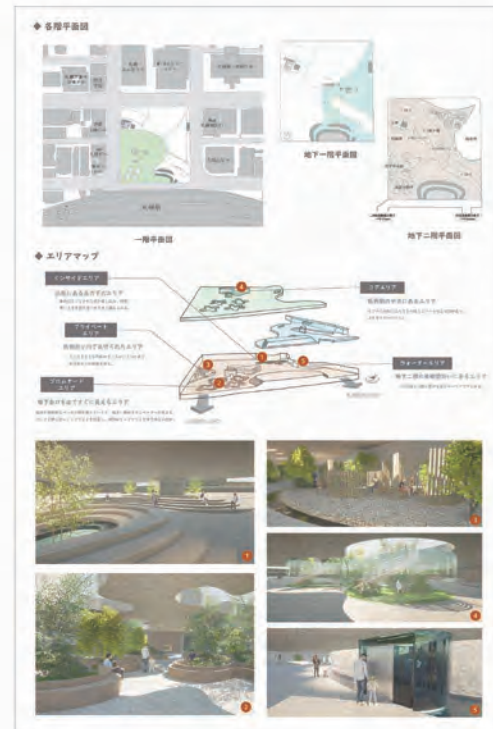
井戸端会議、車庫でのBBQのどちらも屋内とも外とも言えないような空間で行われて  
いるのではないかな?

自分のテリトリーでありつつも一本線を引いたような距離感の空間に交流のヒント  
が存在するのでは?











# 歩く駅前空間

～地域に寄り添う交通拠点施設の設計～



小樽は年々観光客が増加傾向にあり、小樽独特の街並みからも今後も観光客増加が見込める。しかし現在の小樽駅は、駅内は最近新しくなったものの駅前広場はバリエーションと駐車スペース、スクリーン乗り場が狭小であり、歩行者は乗り降りへ降りるときは道路を横断箇所が多くなり、歩行者の安全確保が必要である。そこで私たちは、地域住民から観光客、社会人が利用しやすい第一歩を考えた。新たな観光客増加と地域住民の暮らしの平穏となる提案を行いたい。

# 機能分散化による街の顔づくり 西区琴似における行政・集会施設の設計



背景	設計内容	計画敷地	設計対象の現状
<p>札幌市に整備されている公共建築物の多くは、冬季オリンピックの開催や政令指定都市へ移行した1970年代から各種公共施設が急激に増加し、その地都市機能が一定程度充足してきたことを背景として、減少に転じている。現在では、建築後30年以上経過した公共施設の数は全体の四割を占めており、老朽化や狭小化が進み利用性が低下しているため、今後建て替えの需要が高まっていくと考えられる。</p>	<p>行政庁舎、集会施設、公園施設の3つの計画を行った。設計を行うにあたって、昨今のトレンドでもある施設の複合化といった手法の他に、今現在まとまって配置されている西区役所、西区民センター、保健センターといった行政機能を分散し、まちの顔として分散配置する、機能分散化といった手法で計画を行った。</p> <p>機能を分散させることで、密接な行政サービスを提供すると同時に、施設間を移動する際にまちに賑わいを生み出すことにつながる。</p>	<p>琴似地区は西区において中心的な場所となっている。また、今回の対象敷地は地域交流拠点に指定されている。地域交流拠点は地域の生活を支える拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域のことである。</p> <p>住居であるマンションと商業施設や商店街が混在しているため、生活を営む際に必要になる施設が充実しており、住むことに関しては非常に適した場所になっている。</p> <p>暮らしに隣接する施設が集まる一方で、文化施設やコミュニティ施設が一箇所に集中し、利用者が集まっているが目立つ。</p>	<p>西区役所 1972年に竣工。現在の耐震基準を満たしているため使用は可能だが、建物の老朽化、狭小化が進んでいるため、利用性が低下している。</p> <p>西区民センター 1974年に竣工。庁舎と同様に使用は可能ではあるが、老朽化や設備不足で活動を行えないサークルがあるなど、利用性が低下している。</p> <p>琴似バスターミナル 西区役所と同様に建てられた施設で庁舎と同様に老朽化が目立っている。地下鉄駅と直結していることと、バスの発着数が多いため、利用者が多く賑わいが感じられる。</p>

### 第一ビル

カブススペース

本館の中心となる空間であり、多岐にわたる人々の集まる空間に設計している。また、地域の歴史や文化をテーマにした展示スペースを設けることで、まちの歴史や文化を伝える。

市民ギャラリー

本館の中心となる空間であり、多岐にわたる人々の集まる空間に設計している。また、地域の歴史や文化をテーマにした展示スペースを設けることで、まちの歴史や文化を伝える。

コミュニティスペース

本館の中心となる空間であり、多岐にわたる人々の集まる空間に設計している。また、地域の歴史や文化をテーマにした展示スペースを設けることで、まちの歴史や文化を伝える。

多目的ホール

本館の中心となる空間であり、多岐にわたる人々の集まる空間に設計している。また、地域の歴史や文化をテーマにした展示スペースを設けることで、まちの歴史や文化を伝える。

多目的ホール

本館の中心となる空間であり、多岐にわたる人々の集まる空間に設計している。また、地域の歴史や文化をテーマにした展示スペースを設けることで、まちの歴史や文化を伝える。

多目的ホール

本館の中心となる空間であり、多岐にわたる人々の集まる空間に設計している。また、地域の歴史や文化をテーマにした展示スペースを設けることで、まちの歴史や文化を伝える。

### まちに寄り添う「なごみち」

駅前広場と駅内空間を新しい「なごみち」をつくり、地域の歴史や文化を伝えることができる。また、まちに寄り添った空間を創出する。

### 「なごみち」を中心とした空間構成

行政庁舎、集会施設、公園施設の3つの計画を行った。設計を行うにあたって、昨今のトレンドでもある施設の複合化といった手法の他に、今現在まとまって配置されている西区役所、西区民センター、保健センターといった行政機能を分散し、まちの顔として分散配置する、機能分散化といった手法で計画を行った。

### 機能を結びつける空間

機能を分散させることで、密接な行政サービスを提供すると同時に、施設間を移動する際にまちに賑わいを生み出すことにつながる。

### 様々な利用を想定した多目的ホール

多目的ホールはフロアごとに、多目的に利用できる計画。用途に応じてよりフレキシブルに利用可能。

### 駅前広場と一体的な利用可能な市民ホール

駅前広場に合わせた規模を確保することで、ホールと一体的な利用を可能にしたイベントホール。

### 駅前広場に合わせた多目的ホールの配置

駅前広場のレイアウトに合わせて、多目的に利用できる計画。用途に応じてよりフレキシブルに利用可能。







# 感染か 交流か



アフターコロナ  
を見据えた  
雑居ビルのあり方

現在世界中で問題視される新型コロナウイルスについて  
様々な情報をもとに、建築的観点から問題解決を行う  
2019年12月初旬、中国武漢市より原因不明の肺炎確認  
以来、同市にて同症状患者の増加、市中感染確認  
2019年12月31日世界保健機構（WHO）へ正式報告  
2020年1月15日日本国内第一例目確認  
これまで、日本国内感染者数270万人、死者数1.8万人確認  
2020年3月11日WHOによるパンデミック宣言発令  
その後、ウイルスは形を変え世界各国に拡散される  
ウイルスの世界的流行は歴史的に見ても繰り返されている。  
今回の新型コロナウイルス終息後  
また新たなウイルスの世界的流行があると推測できる。  
その際の「歓楽街の賑わいの創造」を目的とする。

石橋研究室 4318235 森戸駿輔

## 平面計画 アクソメトリクスをスペースに



風の流れを妨げないよう廊をレイアウトし、建物内部は同軸メインの利便性を確保する。空利用のできない場合は同軸上の開口を開けるレイアウトに配置する。建物内部は屋外空間の利用促進を促す。

面積表	裏	表	共用部
5階	216m <sup>2</sup>	108m <sup>2</sup>	27m <sup>2</sup>
4階	216m <sup>2</sup>	135m <sup>2</sup>	27m <sup>2</sup>
3階	216m <sup>2</sup>	162m <sup>2</sup>	27m <sup>2</sup>
2階	216m <sup>2</sup>	189m <sup>2</sup>	27m <sup>2</sup>
1階	198m <sup>2</sup>	198m <sup>2</sup>	108m <sup>2</sup>
地階	216m <sup>2</sup>	216m <sup>2</sup>	108m <sup>2</sup>

レントラブル比 87.6%  
ポイドを設けることによりレントラブル比の向上を図る。

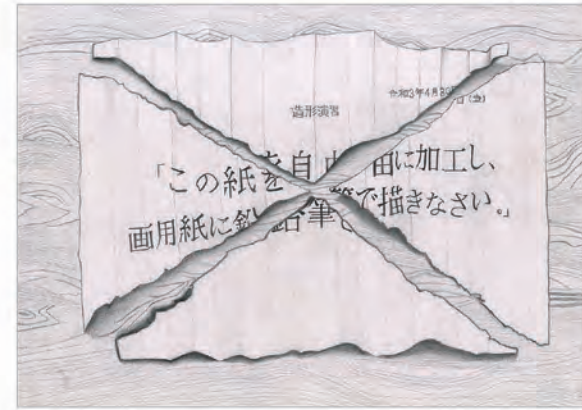
スケッチ 1/500

4318115	新保涼音	Suzune Shimpo	コア-新たな時間市場の創出-(共同作品)
4318116	鈴木 陽	Hinata Suzuki	農活 ~都市近郊農業と支援のかたち~
4318117	高崎菜々美	Nanami Takasaki	いなりの坂寄合所 ~失われゆく歴史を継承する建築~
4318120	高橋奈緒	Nao Takahashi	Terminal:炭都終着
4318122	田口堤也	Daiya Taguchi	擁壁が繋ぐ内と外 ~擁壁内部空間の新提案~
4318124	鳴海圭祐	Keisuke Narumi	in the loop -複合化による循環型子育て支援-
4318129	本間結子	Yuiko Homma	コア-新たな時間市場の創出-(共同作品)
4318139	吉田光沙	Misa Yoshida	雪が集う里-地域住民と共生するスキーリゾートの提案-
4318140	渡邊光喜	Koki Watanabe	原風景を覗く-都市緑地の活用と体験学習の場の創出-
4318211	小堀奈津菜	Nazuna Kobori	繋 ~札幌駅北口の地上と地下~ (共同作品)
4318215	塩谷拓希	Hiroki Shiotani	換骨奪胎真駒内
4318216	柴田駿介	Shunsuke Shibata	屯田改拓 ~屯田町の開拓的要素から導くまちの再編~
4318219	関本真矢	Maya Sekimoto	歩く駅前空間 ~地域に寄り添う交通拠点施設の設計~
4318226	福井彰一郎	Shoichiro Fukui	機能分散化によるまちの顔づくり-西区琴似における行政・集会施設の設計-
4318229	堀田達也	Tatsuya Horita	交わす拠 とどまる街 ~遠洋水産業に従事している外国人の拠り所を地域と結び交流を促す~
4318231	三上舞子	Maiko Mikami	繋 ~札幌駅北口の地上と地下~ (共同作品)
4318234	村田 駆	Kakeru Murata	水を紡ぐ科学館-水と人との密接な関係の再発見-
4318235	森戸駿輔	Shunsuke Morito	感染か交流か-アフターコロナ社会を見据えた雑居ビルのあり方-

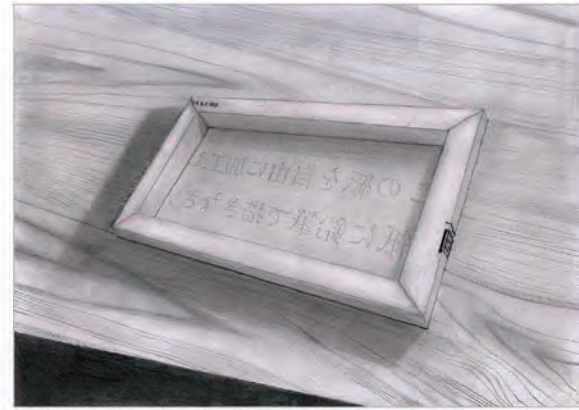


① 問題用紙をモチーフとした平面構成

この紙を自由に加工し、画用紙に鉛筆で描きなさい。(素材は鉛筆)  
紙のもつ性質と印刷された文字をうまく生かしながら表現すること。



① 南 祐那  
Yuna Minami  
4321232



① 武永蒼依  
Aoi Takenaga  
4321215



① 西垣優衣  
Yui Nishigaki  
4321223



① 佐藤智哉  
Tomoya Sato 4321112

② 季節をテーマとした自画像

季節をテーマに自画像を描きなさい。(素材は鉛筆)  
自画像の配置は自由ですが、画面に今の季節を感じさせる要素を必ず入れること。



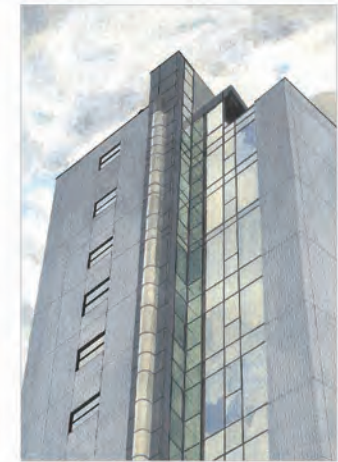
② 鈴木 萌  
Moe Suzuki 4321213



③ 奥村 怜  
Ryo Okumura 4321106



② 渋谷 亜勉  
Atomu Shibukawa 4321212



③ 高溝ありさ  
Arisa Takamizo 4321120



② 有村萌花  
Moka Arimura 4321101



③ 山本大夢  
Hiromu Yamamoto 4321235

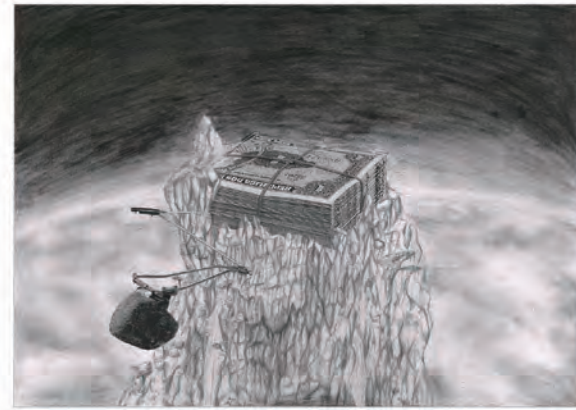


④ コラージュを主体とした平面構成

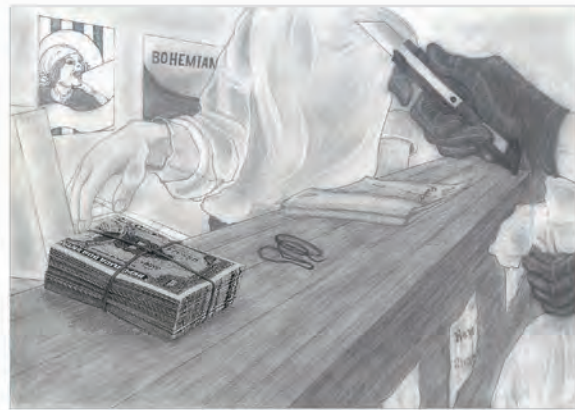
与えられた写真の中から2要素程度とりあげ、それらを主役とした画面を構成しなさい。(素材は自由)  
コラージュしたものが画面の中で自然に存在するよう空間を描くこと。



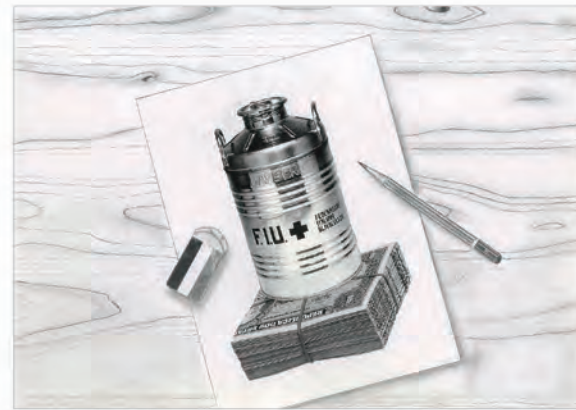
④ 佐藤 拓音  
Takuto Sato  
4321211



④ 室 杏佳  
Kyouka Muro  
4321132



④ 谷 紗矢乃  
Sayano Tani  
4321122



④ 佐々木 陸久  
Riku Sasaki  
4321110

⑤ 身の回りのモノをモチーフとした細密画

細密描写にふさわしいモチーフをあなたの身の回りから探し出し、平面構成しなさい。(着色)  
全体のバランスというより、普段は面倒臭くて省略したくなるような細部に視点を向けること。



⑤ 吉田 拓海  
Takumi Yoshida  
4321136



⑤ 中村 龍  
Ryu Nakamura  
4321222



⑤ 菅澤 翠  
Midori Sugawara 4321116

⑥ 建築と私をテーマとした立体構成

与えられた素材(スチレンボード、樹脂粘土)を最大限に生かし「建築と私」をテーマに自由に表現しなさい。(素材は自由)  
但し、作品サイズは28cm×21cm×5cmの範囲内とする。



⑥ 佐々木 聖矢  
Seiya Sasaki 4321210



⑥ 真鍋 孝輔  
Kosuke Manabe  
4321231



⑥ 村中 啓剛  
Keigo Muranaka  
4321233



個人課題

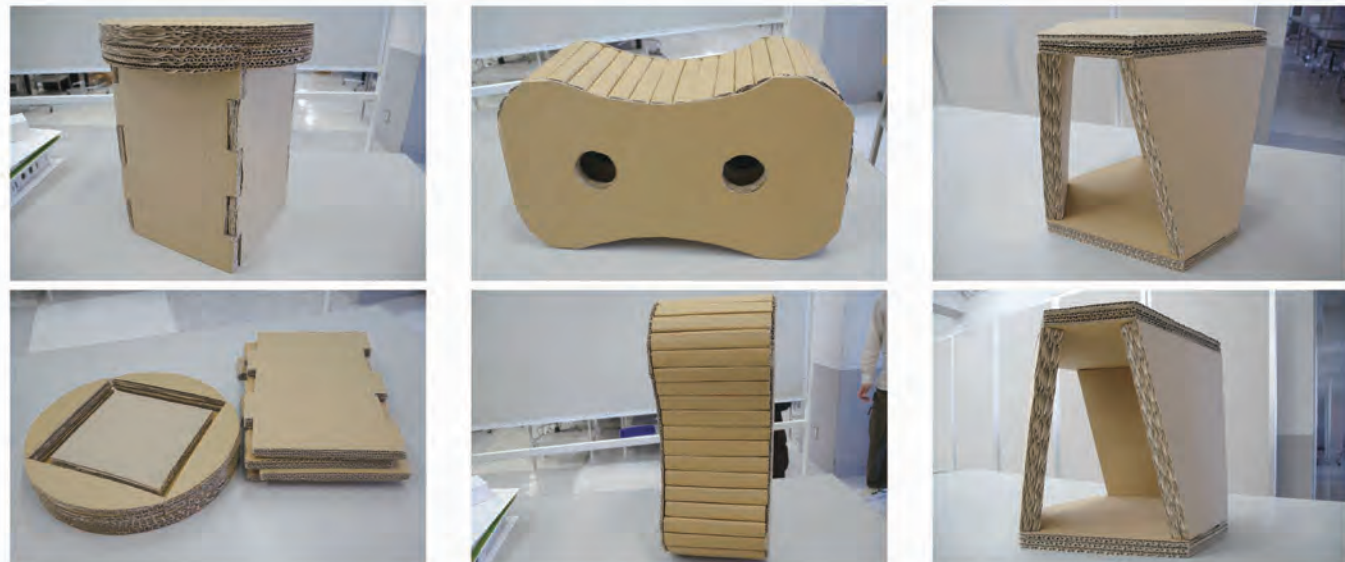
「ツールのデザインと制作」

《発想と寸法と強度》

背もたれのない腰掛け=ツールは、人の体重を支えるという極めて単純明快な機能を果たす。果たすべき機能がたったひとつであるが故に、存にデザインされたツールは無数に存在し、かつ、そのデザインの可能性は依然として無限に広がっている。  
段ボールを材料として、発想と寸法と強度とが調和し、実際に座ることが可能なツールをデザインしてほしい。



中山 碧  
Aoi Nakayama  
4320230



中田彩太  
Ayata Nakata  
4320132

山田祥平  
Shohei Yamada  
4320143

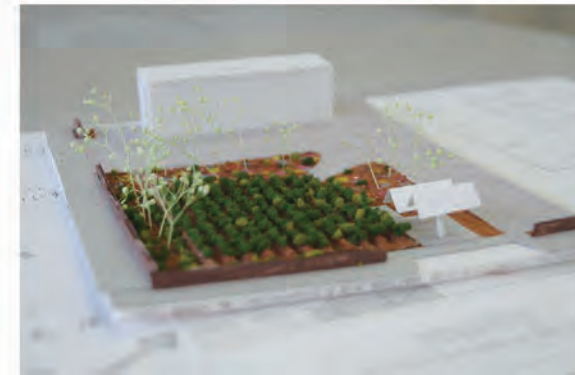
太田滉一  
Koichi Ohta  
4320208

最終課題

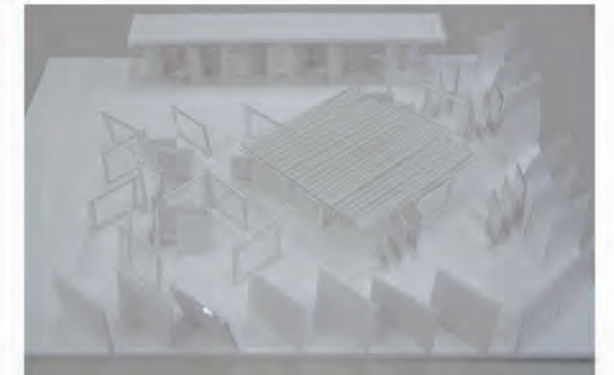
「待つ+」

《シャトルバスバス停デザイン》

山鼻キャンパスと豊平キャンパスとを繋ぐシャトルバスは、それが果たす役割について、概ね好評との情報が得られている。  
しかし現状、バスに乗車する場所には、「待つ」という行為に対するなんらかの適切な配慮は乏しい。今後、空間と向き合っていく歩みのスタートとして、「待つ」という行為をじっくりと見つめ直し、あなたならではのバス停を創造してほしい。



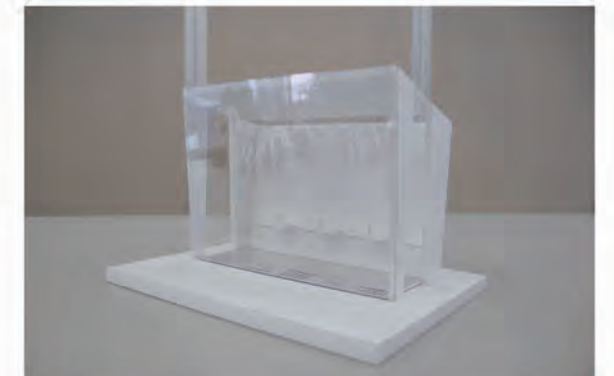
中村千陽  
Chiharu Nakamura  
4320133



山下 建  
Takeru Yamashita  
4320242



本山敦崇  
Nobutaka Motoyama  
4320238



中山 碧  
Aoi Nakayama  
4320230



渡邊竜馬  
Ryoma Watanabe  
4320147



飴田琢真  
Takuma Ameda  
4320103



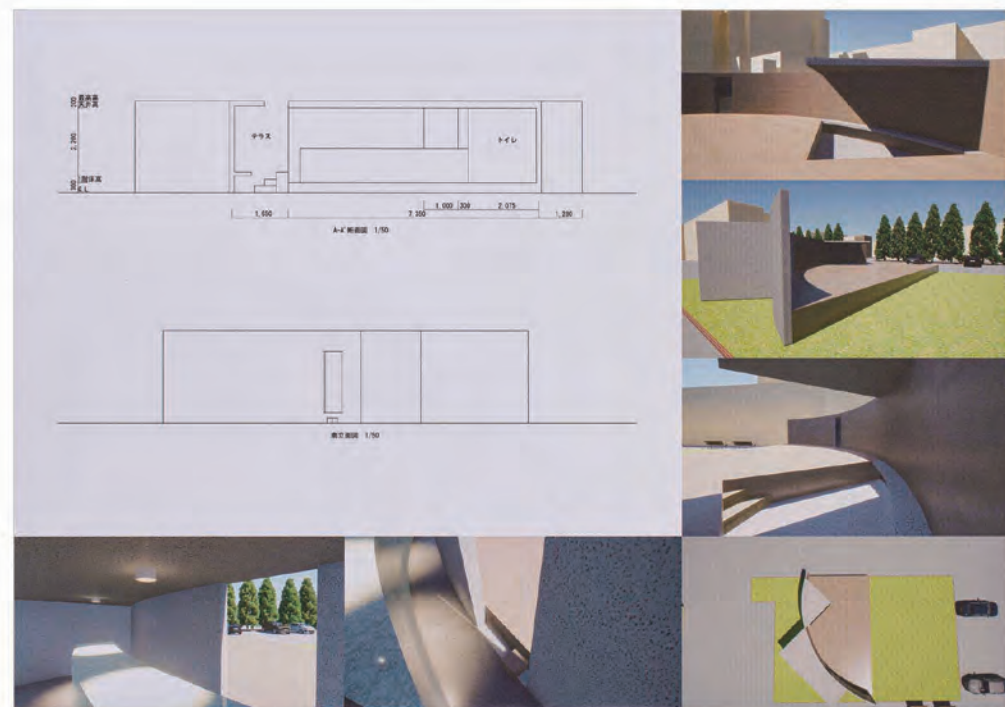
カフェ・テラス

工学部校地の一角に建つ学生・教職員のための「たまり場（カフェテラス）」の設計。敷地は東西12m×南北15m。床面積は50㎡程度まで。用途は喫茶を主とするが、作品展示コーナー、ミーティングルームなど、各自が必要と考えるスペースも自由に盛り込んでよい。

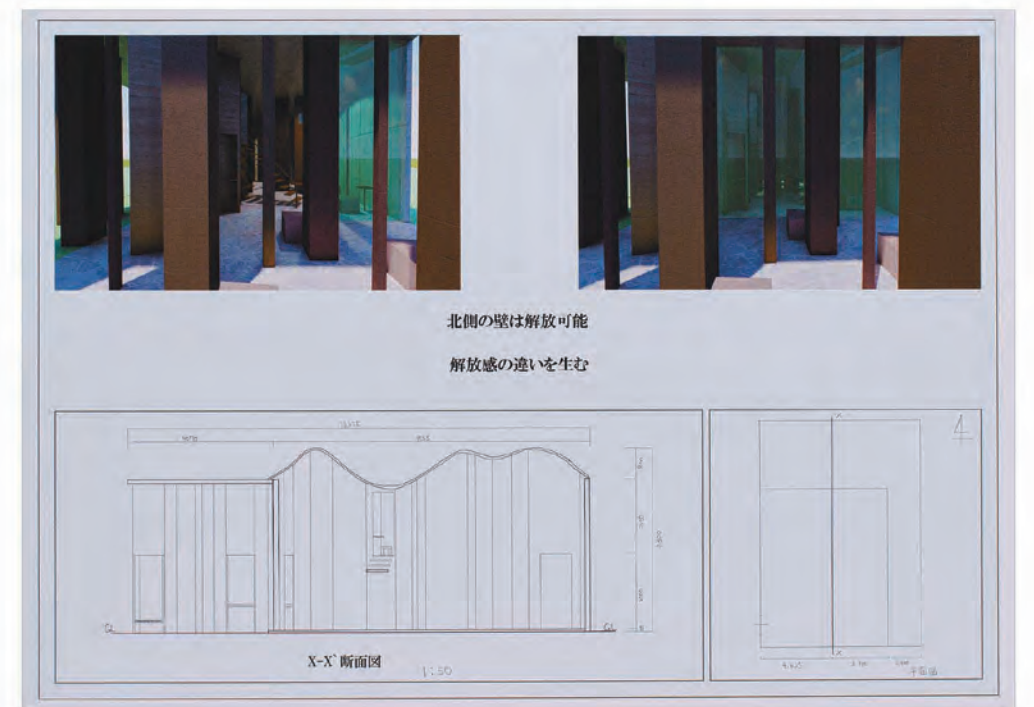
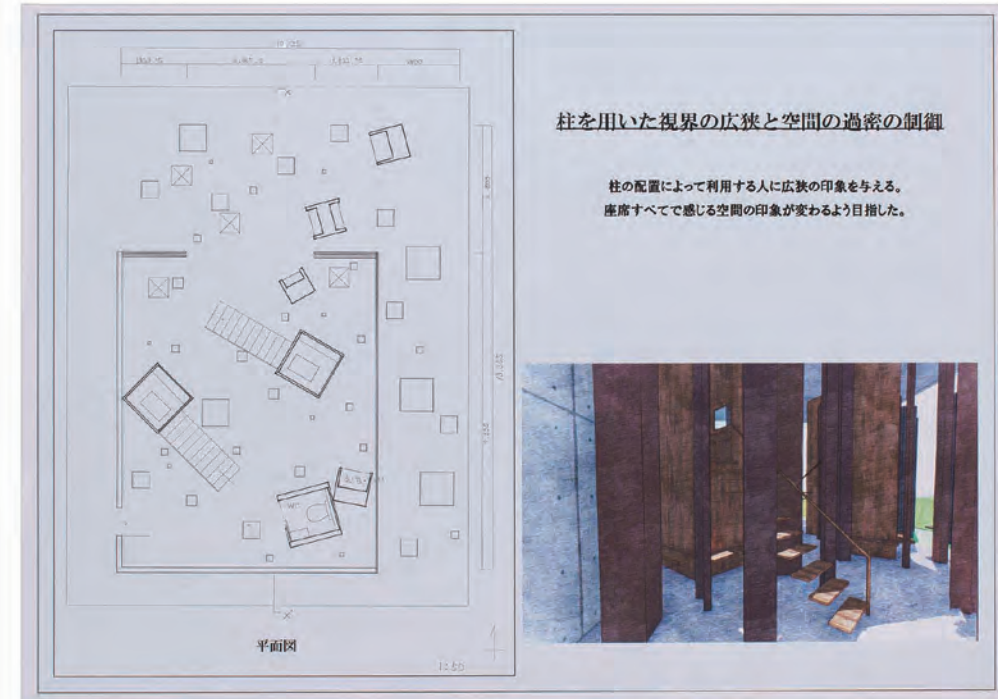
佐々木優真 4320120  
Yuma Sasaki



一如 幾何学的な図形の組み合わせから生まれる独立した空間をコンセプトに設計した。わずかな高低差による印象の違い、自然物と人工物の対比を楽しむ。空間同士を行き来する際に高低差を設けるようにし、より違いを感じられるようにした。弧を描いた壁で覆っている空間は、床としても腰掛けとしても機能する。カフェ空間の窮屈・不便性と、テラス空間の開放感のコントラストから生まれる感情の動きを大切にしている。面積においても対称性を重要視しており、曲線によってちょうど2つに分断された空間が広がる。



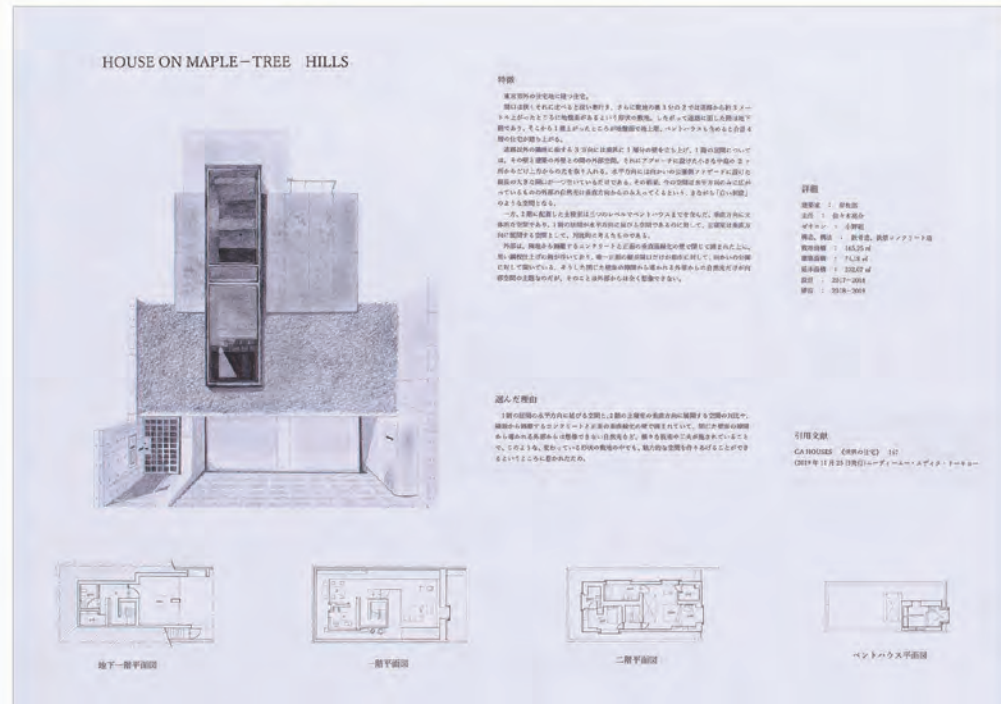
本山敦崇 4320238  
Nobutaka Motoyama





小課題「住宅をさがそう」

デザインを学ぶ効果的な方法の一つは、優れた作品をたくさん見ること、そしてそれを手で描いてみることです。この課題はそのためのトレーニングであるとともに、次の課題「住宅」のための事例研究も兼ねています。

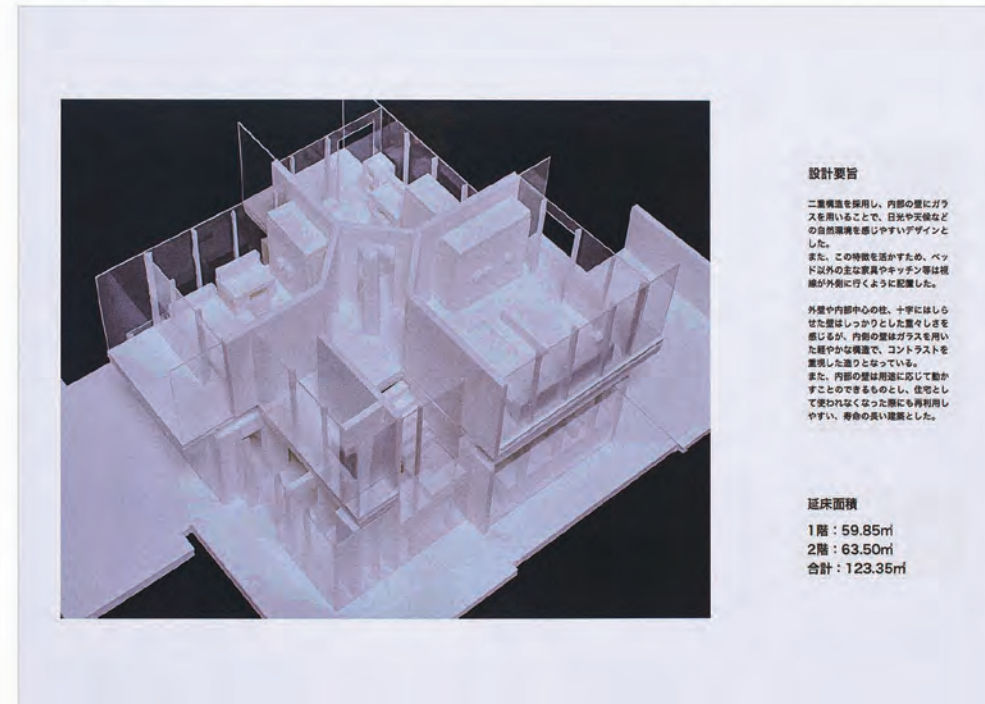


福田涼太  
Ryota Fukuda  
4320136

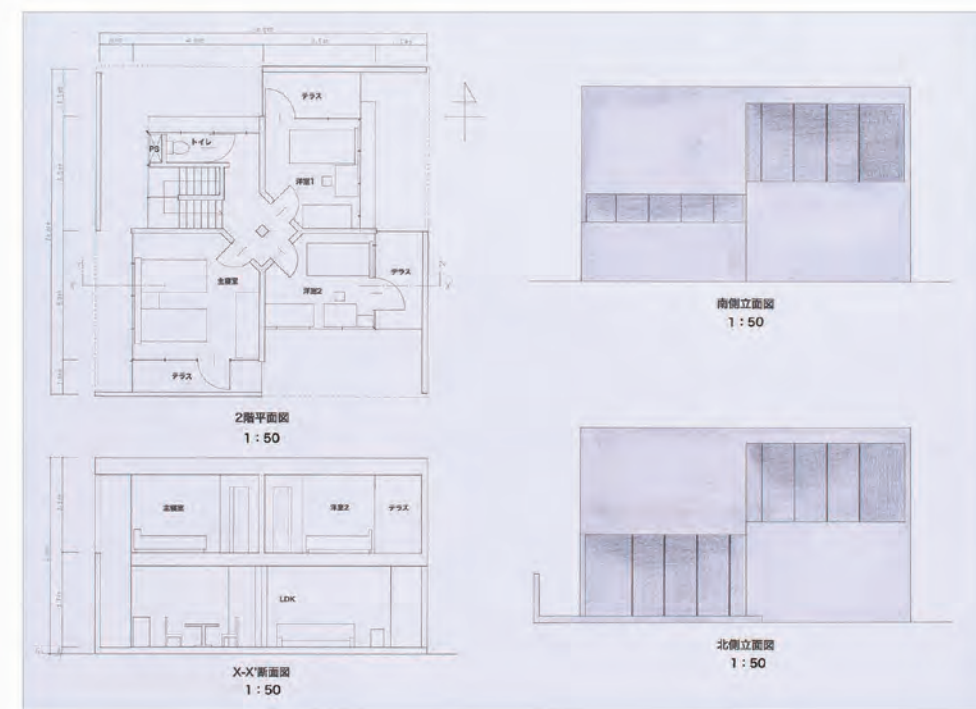
住宅

現代人の生活にふさわしい魅力ある住まいの設計。敷地は東西14m×南北18m。北に車道、南にプレイロットと遊歩道が隣接。周囲は閑静な住宅地。家族構成は夫婦と子供二人（10代の長男、長女）。

秋山果澄  
Kasumi Akiyama  
4320102



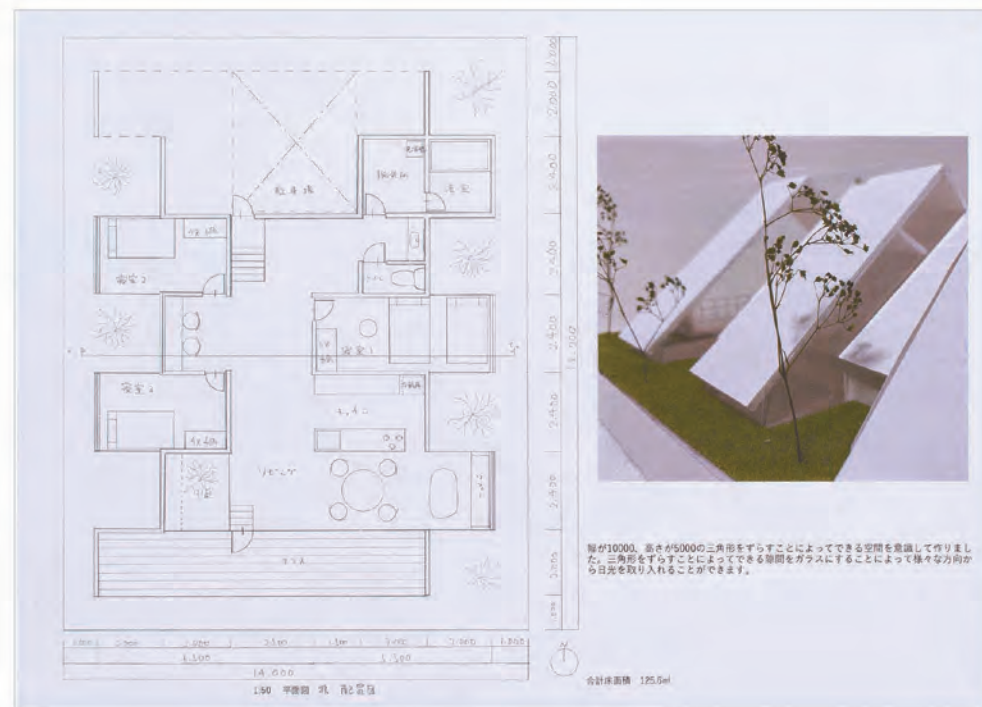
井上洸平  
Kohei Inoue  
4320205





住宅

木村凌雅 4320214  
Ryoga Kimura



デザイン・スクール

これは、趣味や日常生活、あるいは将来の仕事のためにデザインを学ぶための建築です。(ファッション、インテリアの2コース。2年制)。デザインの勉強にふさわしい雰囲気のキャンパスと学校生活を楽しめるような場を留意してほしい。設計にあたっては次のことに留意してほしい。 ①授業ばかりでなく、課外での学習・休憩など、学生の活動・動きを考えた建築の提案。(内部空間のほか、校庭など屋外の場のあり方、内部とのつながり方など) ②校舎全体が円滑に機能するような各空間の配置の検討。(教室群、演習室、教員室、図書室、管理用諸室、休憩・移動空間、屋外の居場所など、相互の位置関係) ③敷地周辺の環境との関係や住民に開かれた建築の提案など。

湯田 葵 4319136  
Aoi Yuda





デザイン・スクール

大畝悠介 Yusuke Ose 4319205



**街の種苗**  
CONCEPT

日頃人間がデザインという行為をする際、脳内に散らばっている様々なアイデアの種をかき集め、1つの形を作り上げている。その行為自体を建築に落とし込もうと考えた。今回は、1つ1つの教室などの素材各自をデザインしてから、通路空間を巻きつけ、1つの建築にまとめあげるといった手法をとった。

デザインをする際の脳内イメージ

それを建築に落とし込むイメージ

A-A' 断面図 1:100

B-B' 断面図 1:100

校内を周回する中にも、室内に樹木などの自然が配置されたスペースが存在している。自然の持つ癒しの力を利用しているのももちろんのこと、公園内に存在するこの建築を、外の空間である公園と隔絶させたくなかったという思いがある。校内に小さな公園が散らばっているというイメージを、この学校が小さく輪小した街のような風にも見えてくる。GLの高さに樹木が植えられているため、普段は見えない角度から植物を観察することができ、デザインや他の何か繋がる新たな発見があるかもしれない。

**小課題「建築作品をさがそう」** この課題の目的は空間デザイン演習Iの場合と同じく、多くの優れた作品を見ること、そしてそれらを自分の手で描いてみることを通して、形態・空間・設計手法などを学ぶことにあります。対象建築については、①住宅・集合住宅以外。ただし、現代建築に限定。②専門雑誌、作品集などの専門図書に掲載された話題性や評価の高い作品の中から、気になる作品、好きな作品、あるいは勉強になる作品を1点選択する。

**コープ共済プラザ**  
COOP KYOSAI PLAZA  
/日建設計

**平面計画**  
建物の中心にコアの空間を設け、階別の機能性を形成。その内側に規定した階層内に自然採光のよいスペースを配置した。ことにより階間の縦断空間が生まれ、高層部で快適な環境を享受することができ、一方で人が移動する際に歩道の緑を楽しむことができる。

**断面計画**  
コアコアの吹き抜けを設け、自然採光と自然換気を確保し、高層部で快適な環境を享受し、一方で人が移動する際に歩道の緑を楽しむことができる。

**ローインパクトで災害に耐える**  
大規模な地震に耐える。二つの階層を地震エネルギーを吸収し、そのエネルギーを減衰させることで、地震時の揺れを軽減し、人命の被害を軽減する。また、地震時の揺れを軽減することで、建物の寿命を延ばすことができる。

鈴木美瑛 Eimi Suzuki 4319118

**日本システムウェア本社ビル**  
田邊博司

この建物の計画は、北に面した高層ビルを、東に面した低層ビルを、西に面した中層ビルを、南に面した高層ビルを、それぞれ異なる高さで配置することで、建物の全体を有機的な形でまとめることとした。

北側ファサード

この建物の設計は、有機的な形でまとめることとした。北に面した高層ビルを、東に面した低層ビルを、西に面した中層ビルを、南に面した高層ビルを、それぞれ異なる高さで配置することで、建物の全体を有機的な形でまとめることとした。

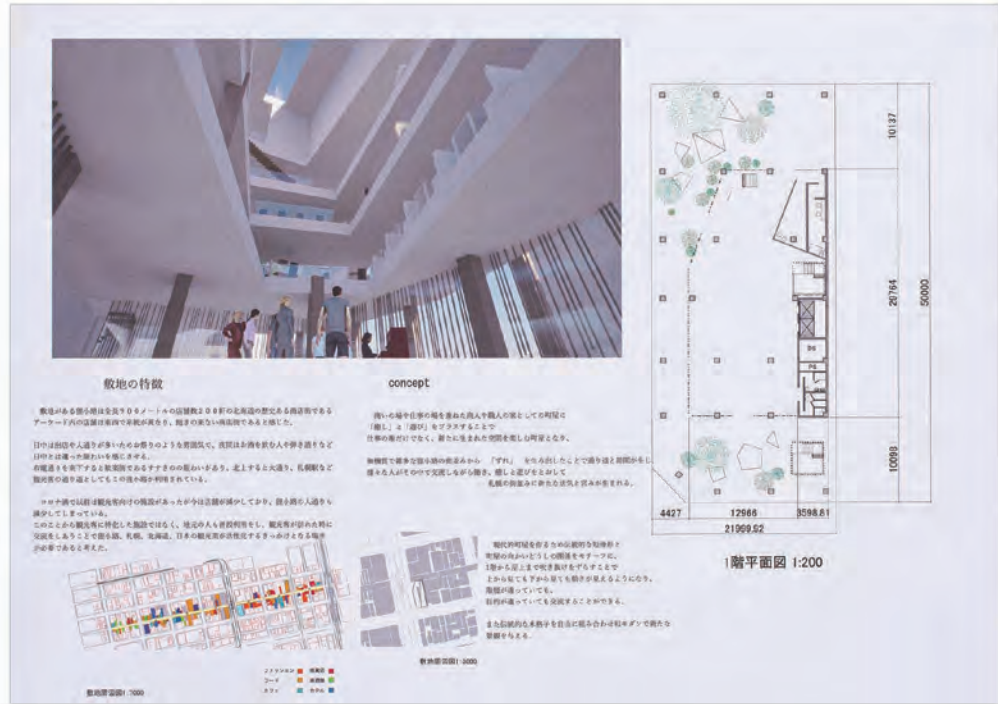
池野瑠里子 Ruriko Ikeno 4319202



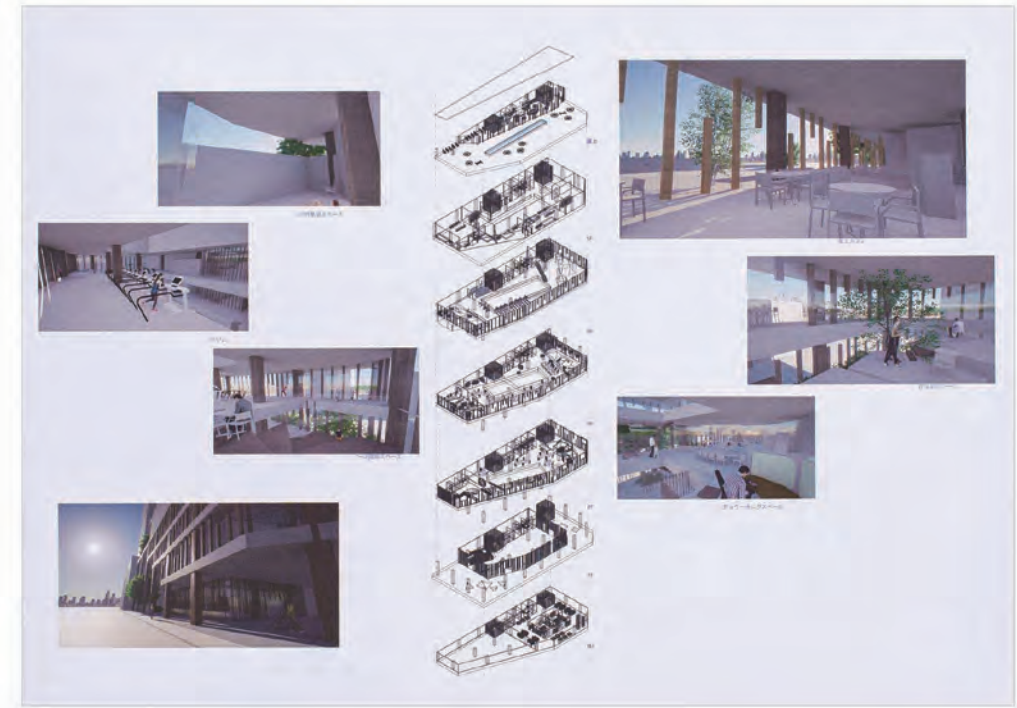
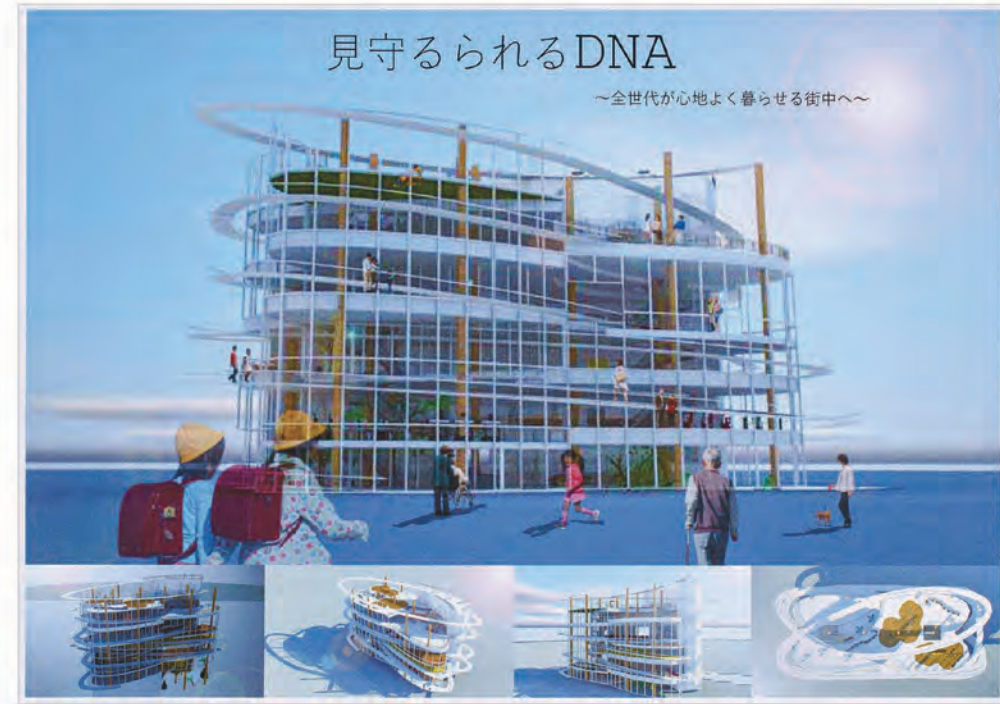
テナント・ビル

床を多層化したビルは都心における建築の典型です。多層化に伴い構造、設備、交通空間などが立体化し、近隣のビルや街並とも密接した関係におかれます。それらは制約条件といえますが、同時に都市建築ならではの特徴でもあります。都心に働く人々や都心を楽しむ人々にとってどのような建築が期待されるか、また街並や敷地条件に対してどのような建築がふさわしいか、テナント・ビルの設計を通じて提案してほしい。

鈴木瑛美 4319118  
Eimi Suzuki



渡邊智帆 4319236  
Chiho Watanabe









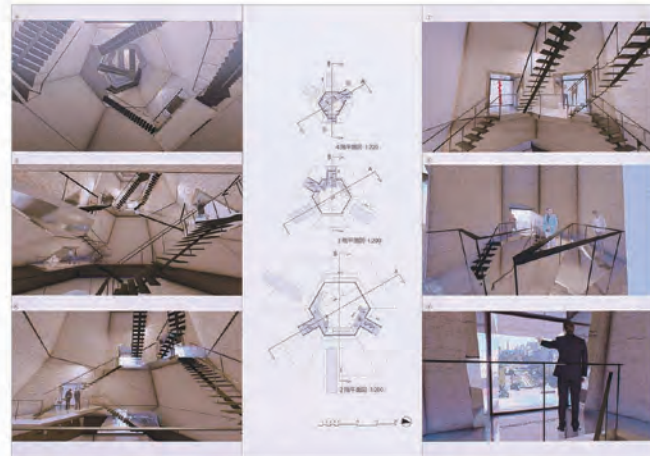
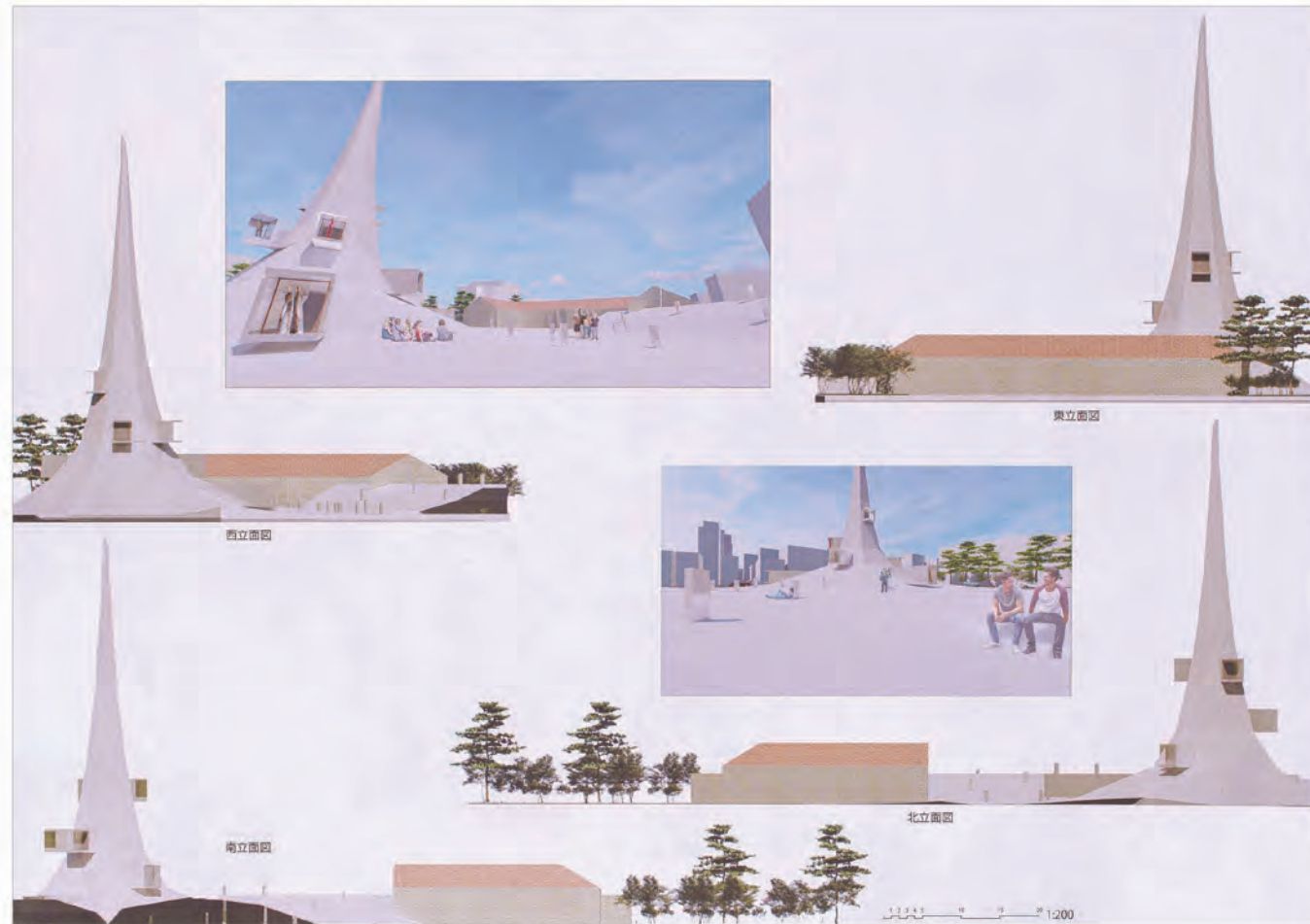
アート+建築=X

アートと建築について考えてみよう。

アートという言葉からは、芸術や美術とは異なる印象が伝わってきます。アートは、芸術や美術と言葉の意味することは同じとは言え、あまり堅苦しい印象はなく、比較的人々にとって身近な存在になっています。現在の都市空間の中には、表現手段は多様なながらもアートは満ち溢れています。このようなアートを建築と組み合わせるとどうなるでしょうか。既存のビルディングタイプからは、美術館が想像させられます。しかし、既存の美術館は、展示された芸術や美術作品を「見る」という行為が中心になり、展示空間では、学芸員などの管理者側の視線によって、作品との間に距離感を生じさせています。今回の課題では、芸術や美術に限定せず、人々にとって身近な存在であるアートと建築の関係性を模索しながら、今までの美術館とは異なる建築を設計することを目的としています。アートと建築に関しては、表現媒体としての共通性がありますが、それぞれの目的性は決して同じではありません。時間軸を中心に考えると、建築はアートより恒常的なもので、長い時間に耐えることが要求されると考えられます。しかしながら、現代社会においてはアートと建築の境界線は必ずしも明確ではありません。アート+建築=X、このXを提案して下さい。

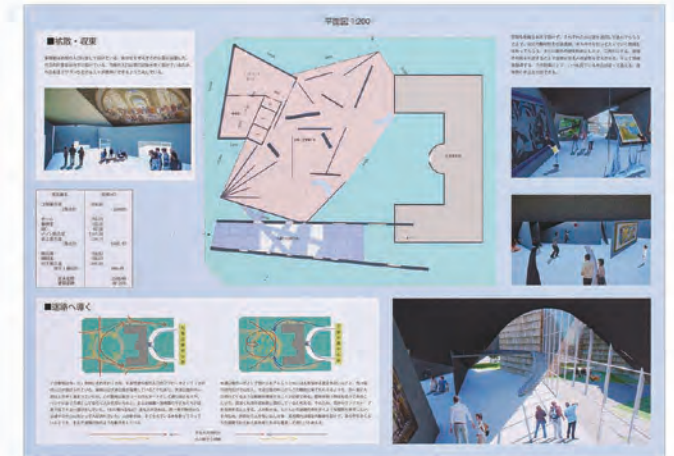
大畠悠介  
Yusuke Ose

4319205



渡邊智帆  
Chiho Watanabe

4319236

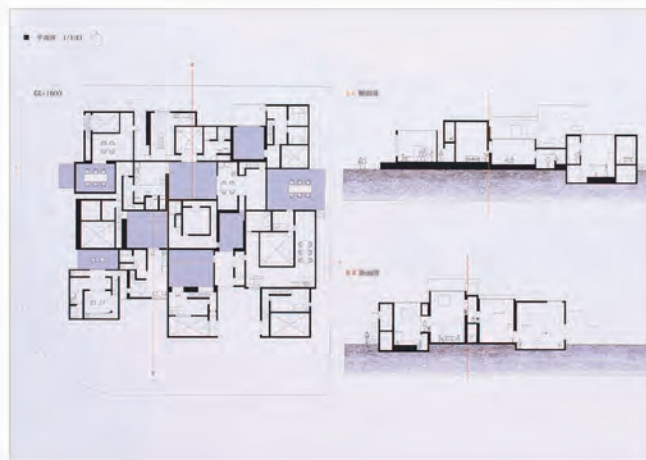




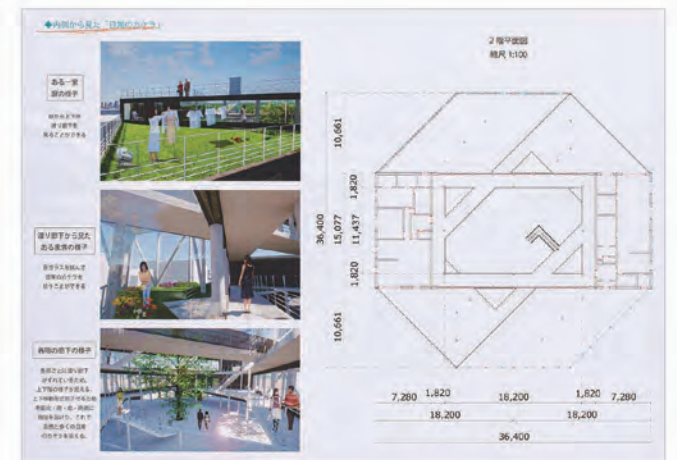
電車通りの「みんなの家」

「いえ」は生活のよりどころです。したがって、「いえ」は生活者の意思や好みが反映し、所有する敷地の中では生活者の自由が保障されています。しかし、「まち」は違います。「まち」は、様々な好みを持った人たちが共有する空間です。「まち」の本来な目的性は、人々の多様性を受け入れるところにあります。複数の世帯が集まって住む共同住宅は、「いえ」と「まち」の間に位置している建築です。したがって、共同住宅は、個人の住む空間の快適性を追求することも大切ですが、「まち」との関わりを意識することも大切になってきます。しかし、現在の既存の共同住宅（マンションやアパート）は、均質化した住戸が反復しているだけで、「いえ」と「まち」の間にある魅力的な共有空間が与えられていません。その結果、「いえ」と「いえ」の交流、そして「まち」との交流が広がらないのが実情です。今回の課題、電車通りの「みんなのいえ」は、このような観点から、「いえ」と「いえ」、「いえ」と「まち」の間を考えることを主な目的としています。札幌の都心に住むことを前提にしながら、個人の快適な空間だけでなく互いの関係を意識できる空間として、集まって生活することができる魅力的な建築環境を提案してみてください。

塩野谷基悟 4319212  
Kisato shionoya



渡邊智帆 4319236  
Chiho Watanabe





大通公園前の図書交流館

いまの図書館に、不満を持っていませんか？

既存の図書館は、主に利用者に収集した資料や情報を最大限に提供し、調査研究に役立てる社会教育施設として機能しています。しかし、普段利用する上では、利用者の書斎であったり、勉強部屋のような場所であったりと、日常的な空間の延長として存在しているのが実状だと思います。しかし、既存の図書館をかえりみると、いかにも「公共建築的」で、人々が心地よい場所として利用できる本来の建築空間としての視点が大きく欠けています。その居心地の悪さが人々のためのコミュニティスペースとしての機能性を満足させていない理由にもつながっています。本来の公共建築には、もっと人々の交流の拠点となるような、生きた建築が求められているはずです。今回この課題で、札幌の都心に、図書館の機能を中心とした、人々のための、あるいは個人のための新たな「図書交流館」を考えてみます。このロケーションは、大通公園に隣接し、札幌のランドマークであるテレビ塔や創成川公園、そして時計台にも近い魅力的な環境でもあります。この環境を生かすことによって、さらに札幌の魅力を高めることができるのではないのでしょうか。

鳴海圭祐 4318124  
Keisuke Narumi



柴田駿介 4318216  
Shunsuke Shibata

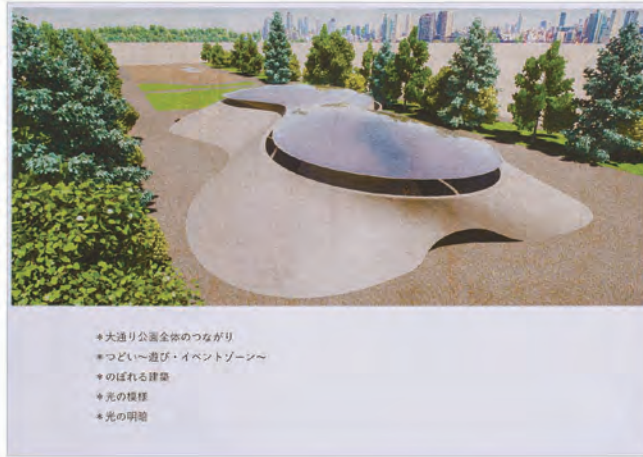




光と邂逅する建築

建築にとって、光は必要不可欠です。人体にたとえると血液のようなものです。建築形態に表情を作り出すために、内部空間を生かすために光は極めて重要な存在です。光は、建築に豊かさを生み出し、生活に潤いを与えます。今回の課題は、公園の中に「光と邂逅する建築」を設計します。ここでは、休息の空間、祈りの空間、遊びの空間、出会いの空間など人々の生活に安らぎを与えるための空間を用意します。空気のような存在である光をあらためて見つめなおすことによって、建築空間の存在意義を再確認します。また、光は自然の一現象です。建築は、自然（緑、風、水……）との関わりを考えることが重要です。このような観点から、自然の一部のような、生きた建築を提案して下さい。

小堀奈津菜 4318211  
Nazuna Kobori



\*光の明暗

内部の中にさらに内部がある構造で、内部の中の内部は、天井がくもりガラスになっているので、まぶしすぎないくらいの明るい空間になっています。最初の内部は暗めの空間で、差し込む光を楽しむ空間をめざしました。



村田 駆 4318234  
Kakeru Murata



季節と時間

雪のない季節	朝	昼	夕方
<p>太陽の位置が高いため、光がそこまで入らない。      太陽が真上に来るので、チューブを通して光が入る。      太陽が建物の陰に隠れるので、光があまり入らない。</p>			
<p>雪のない季節の光り方</p> <p>空間の外からくる光で線が明るく、天井の穴とチューブを透過する光で中心部はより明るい。</p> <p>雪のない季節の光のダイヤグラム</p>			
冬	朝	昼	夕方
<p>太陽の位置が低いので、朝日が入る。      積雪により光が制限されるので、光があまり入らない。      朝日と同様に夕日が入る</p>			
<p>冬の光り方</p> <p>空間の外からくる光は雪による反射で雪のない季節より線が明るいですが、天井の穴とチューブを透過する光は積雪により制限されるので、中心部は少し暗くなる。</p> <p>冬の光のダイヤグラム</p>			





1等賞

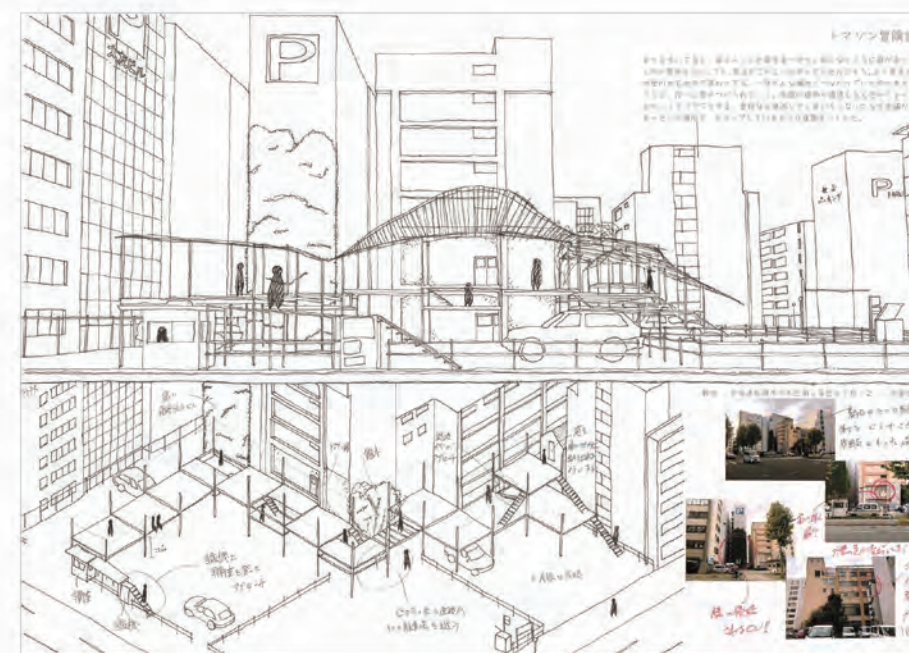
3年生 渡邊智帆  
Chiho Watanabe  
4319236

2年生 渡辺倫大  
Tomota Watanabe  
4320246



2等賞

大学院修士2年生 渡邊憲成  
Kensei Watanabe  
6320102



3等賞

大学院修士2年生 三浦光雅  
Mitsumasa Miura  
6320101

ポスター



応募 【テーマ】みんなで集まる秘密基地  
【敷地】自由  
【提出物】A3サイズ紙1枚  
(平面図+設計意図を説明する断面・立面や内外観スケッチなど)  
※パソコンを使用した作品・プリンターによる印刷物は認めません。

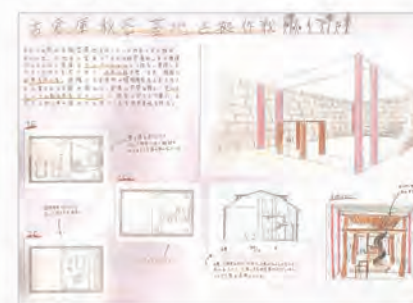
応募作品 A3用紙1枚に、配置図、平面図、立面図、断面図、アクソメトリックまたは投影図、パース、その他設計意図を説明するに必要と思われる図面や、模型写真、設計主旨などを各自選択して描いてください。特に具体的に場所の魅力が判る様に表現して下さい。以敷地を表現するために地図や写真データ等デジタルデータを使っても構いませんが、秘密基地を表現する手段は手書きでのドローイングまたは模型写真として下さい。CG やフォトショップを使ったコラージュ等のテクニックは学年差が出ますので不可とします。

提出期限 2021年10月11日(月)15時まで  
豊平校舎・原井研究室(4号館502号)または研究室前  
山鼻校舎・工学部事務室(2号館2階)

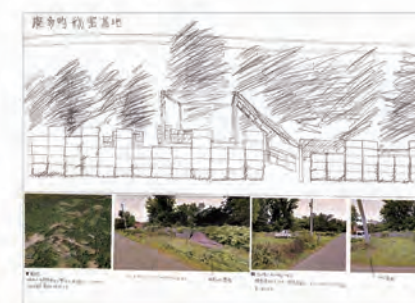
賞品 1等賞 1点 スツール 60 ブラックリノリウム  
2等賞 1点 イッタラ×ミナヘルポネンガラスボード  
3等賞 1点 フライパン 22cm 柳宗理  
学年賞 3点 デザートスプーンとフォーク 柳宗理

注意事項 場所探しの際には(私有地への侵入等)人に迷惑をかけないように十分に注意してください。

学年賞 1年生 中村 龍  
Ryu Nakamura  
4321222

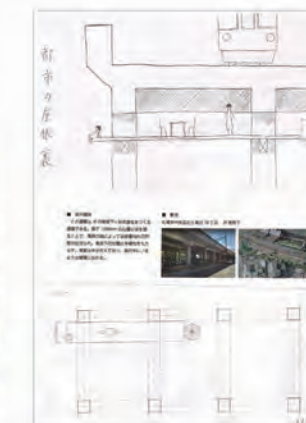


学年賞 3年生 塩野谷基悟  
Kisato Shionoya  
4319212

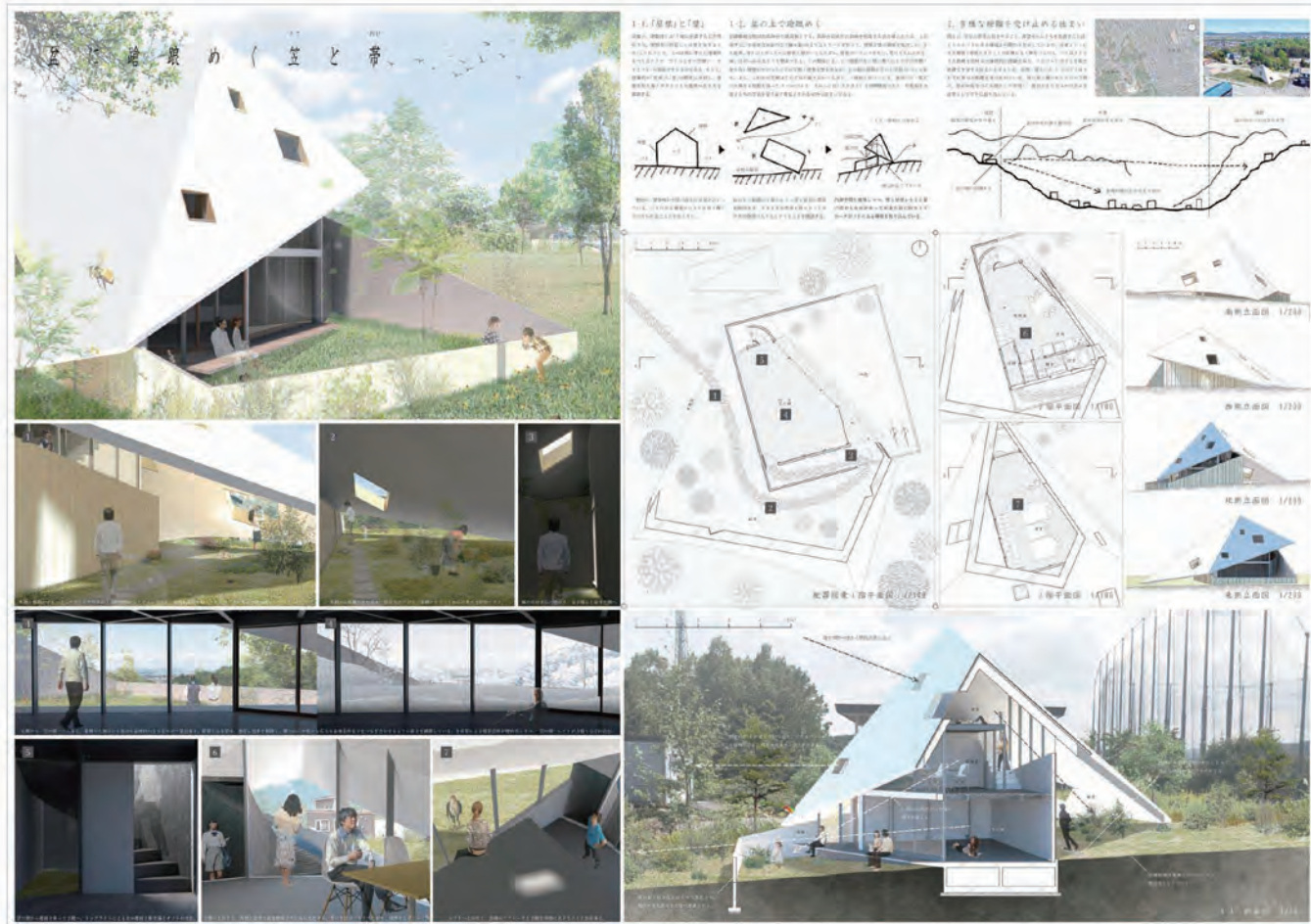


学年賞 4年生

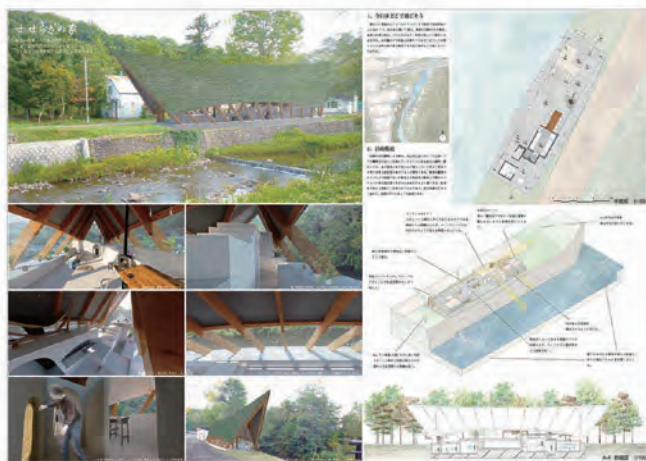
4年生 高崎菜々美  
Nanami Takasaki  
4318117



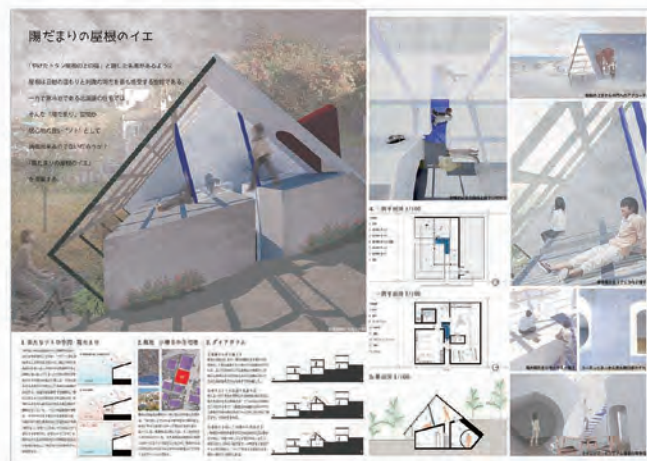




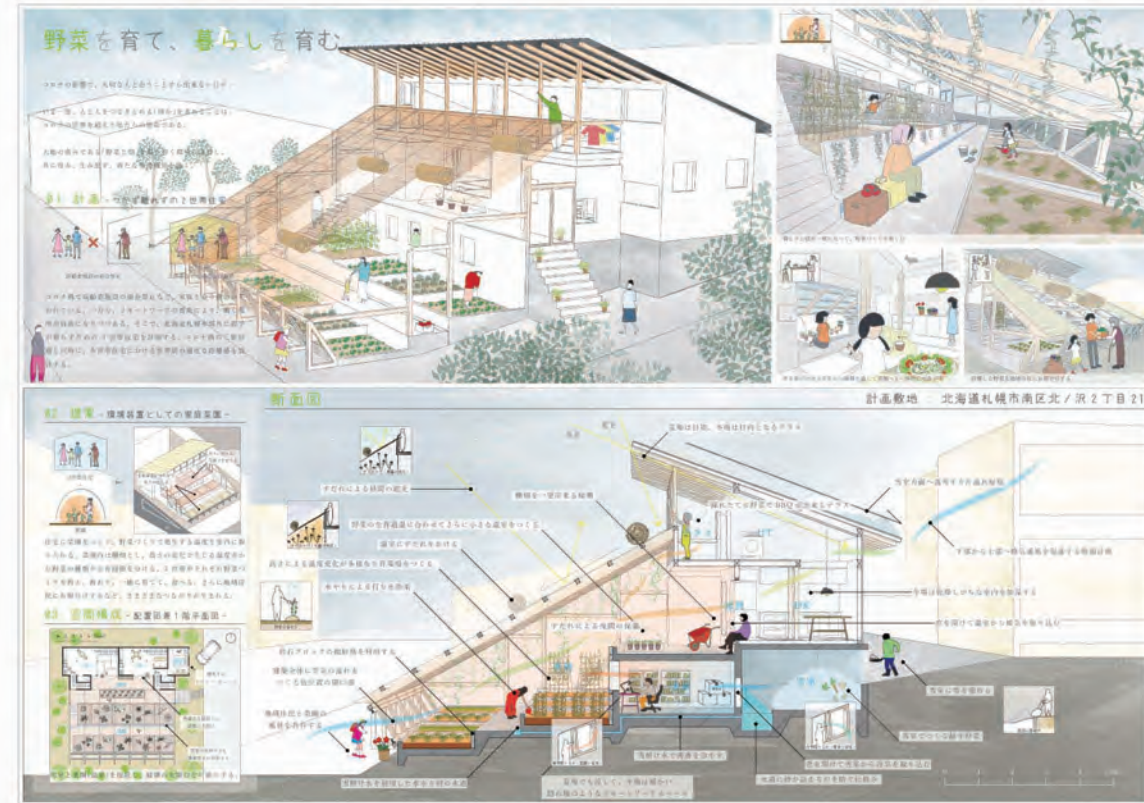
第46回「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞  
大学院修士2年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101



第46回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞  
3年生 塩野谷基悟 Kisato Shionoya 4319212



第46回「北の住まい住宅設計コンペ」奨励賞  
大学院修士2年生 波邊憲成 Kensei Watanabe 6320102



第25回「ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト」優秀賞(共同作品)  
大学院修士2年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101  
大学院修士2年生 波邊憲成 Kensei Watanabe 6320102  
4年生 高崎菜々美 Nanami Takasaki 4318117



「全国建築新人戦2021」100選入選  
3年生 武者凌平 Ryohei Musha 4318134



「北海道建築新人戦 2021」山田紗子賞  
3年生 武者凌平 Ryohei Musha 4318134



沼田町・JR石狩沼田駅舎  
セルフリノベーション

町民と来訪者との出会いの場  
を目指す取り組み

北空知の小さなまち沼田町。廃線が取り沙汰されているJR石狩沼田駅を舞台に、伝統ある夜高あんどん祭りのあんどんを接点に、町民と来訪者との間に会いを生むサードプレイスとして再生を目指した。現場では、地元の工務店や塗装業、タイル業など多くの技術者からアドバイスを受け、初めて手にする様々な道具に戸惑いつつ、自らのデザインした空間を実現した。

この現場経験を通じ、講義で得た知識が自らの実体験を経て身につく貴重な機会である。空間の創造は、クリエイティビティだけでなく、素材の種類・特性の理解と現場の人・技術があってこそ成立する現実を、身を以て実感する。



「行灯が繋ぐ駅」(採用案)



「行灯が繋ぐ駅」(採用案)



「蛍の光が灯るMarche」(次点案)



実測調査へ出発      町長にご挨拶      提案プレゼンテーションはコロナ禍のためオンライン



[1巡目] 具体化を検討するため駅舎と行灯とを詳細に実測      [2巡目] 地元工務店さんたちの指導で足場組み、下地塗装



[3巡目] 外観鉄骨部の下地塗装後に着色      既存の壁を隠す下地の製作      タイル業者さんと打合せ

沼田町・JR石狩沼田駅舎  
セルフリノベーション参加学生

- |         |      |                  |
|---------|------|------------------|
| 4318111 | 佐藤嵩太 | Kouta Sato       |
| 4318113 | 佐藤貴慶 | Takayoshi Sato   |
| 4318120 | 高橋奈緒 | Nao Takahashi    |
| 4318123 | 鉄川 結 | Yui Tetsukawa    |
| 4318125 | 鳴海侑晟 | Yusei Narumi     |
| 4318137 | 山崎達矢 | Tatsuya Yamazaki |
| 4318138 | 山本 愛 | Mana Yamamoto    |
| 4318215 | 塩谷拓希 | Hiroki Shiotani  |
| 4318222 | 武山怜央 | Reo Takeyama     |
| 4318238 | 山下陽平 | Yohei Yamashita  |



完成記念撮影

JR石狩沼田駅舎セルフリノベーション



外観



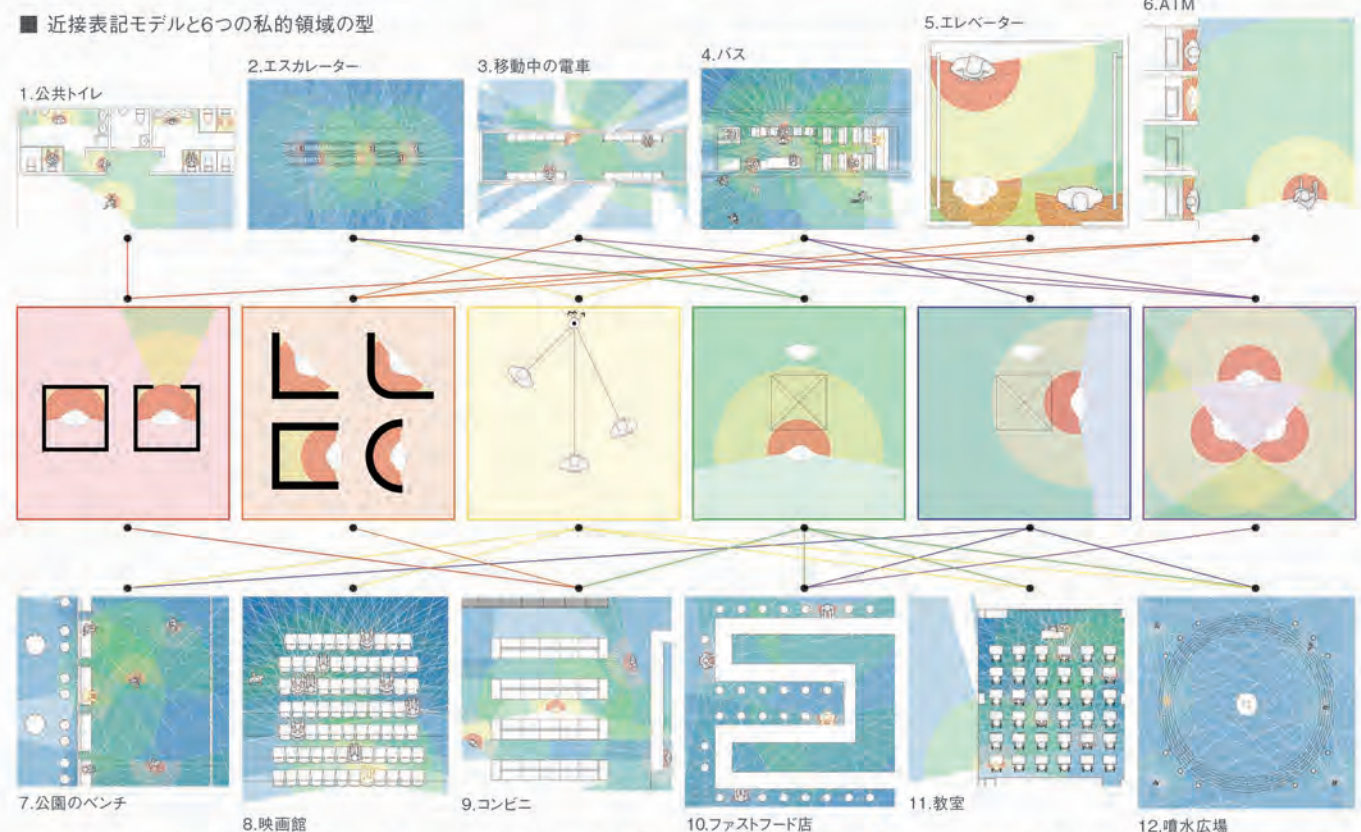
待合室内観(西面)



待合室内観(東面)



住宅は公私の領域を物理的な仕切りによって分けている。例えば、専用住宅であればリビングが公で寝室が私、集合住宅やシェアハウスであれば共用部が公で専有部が私である。しかし、現在はCOVID-19の影響によってリモートワークが普及し、私的な寝室の中に公的な仕事場が出来るなど、物理的な仕切りでは対応しきれないほど公私の領域が入り乱れている。一方で、一般的に公共空間は物理的に仕切られた「私的な空間」が確保されていないため、利用者は人混みの中で自身の身体や視線を駆使して物理的な仕切りのない「私的な領域」をつくりだすのである。

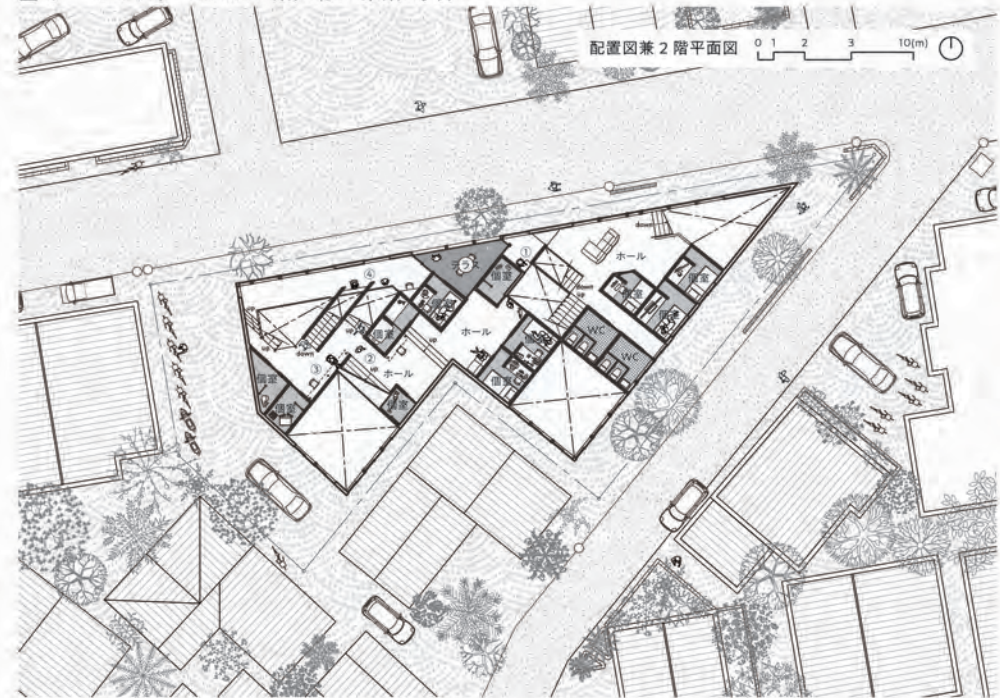


日常生活でひとりだと感じる場面を取り上げ、そこにどのようにして私的領域がつけられているのかを空間・近接表記モデルを用いて検証する。各場面に対する検証から私的領域のつくり方を類型化し、公的領域下に私的領域を内在するための「6つの私的領域の型」として提案する。



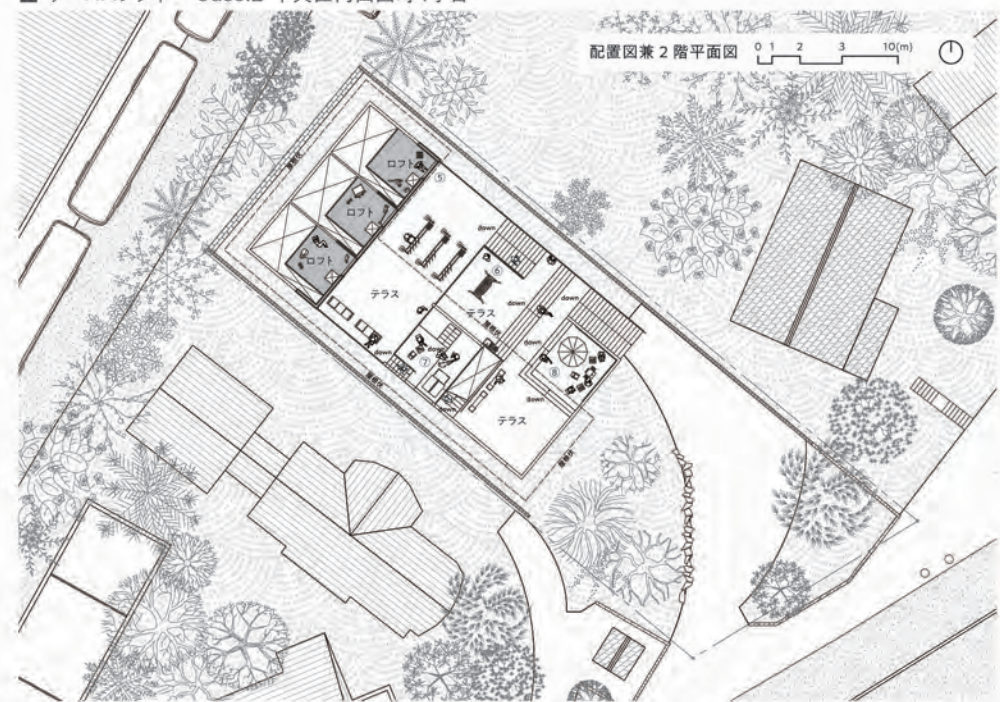
「近接表記モデル」と「6つの私的領域の型」に基づいて、公的領域下に私的領域を内在する住居形式のケーススタディを行う。ケーススタディはCase.1(都市部の住宅街)とCase.2(郊外部の住宅街)で行い、具体的な計画敷地の性質によって私的領域にどのような変化が生じるのかを考察する。

■ ケーススタディ -Case.1 東区北14条東5丁目-



Case.1は札幌駅から徒歩約25分の距離にある敷地である。また用途地域制から、近隣商業地域に囲まれた第一種住居地域であり、最も駅に近い住居地域である。敷地周辺の世帯構成より、1人暮らしをする学生や単身労働者などをターゲットとした集合住居を設計する。キッチン、ランドリー、浴場、トイレを共用とし、最小限に抑えた住戸部分をずらしながら配置する。このようなずれがPocket型の私的領域となるなど、共用部と専有部の取り合いから私的領域が生まれている(例:平面図及びパースの①～④)。それぞれの私的領域はBufferやBack型の私的領域に習い、過度な視線の交錯を避けている。

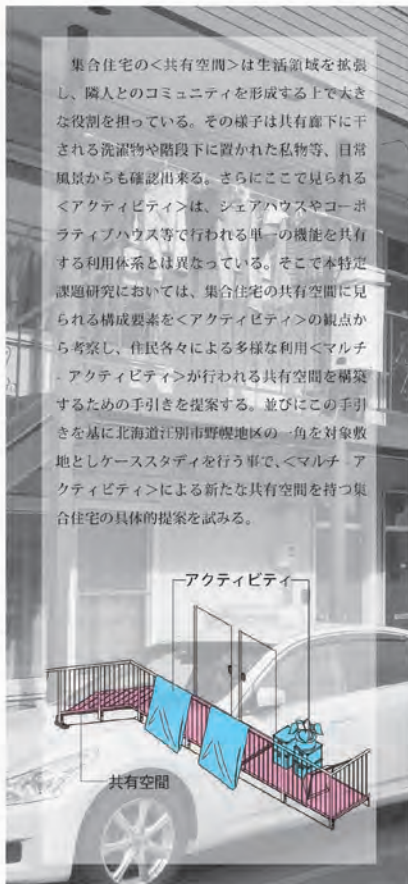
■ ケーススタディ -Case.2 中央区円山西町4丁目-



Case.2は大通公園から車で約12分の距離にある敷地である。また用途地域制から、第一種低層住居専用地域と北側斜線高度地区に属しており、さまざまな制約が設けられている。敷地周辺の世帯構成より、家族世帯や単身高齢者などをターゲットとした集合住居を設計する。必要最低限の生活行為は専有部で完結させ、頭上に広がる共用部が住民間のコミュニケーションを誘発する。敷地周辺の豊かな自然環境をSymbol型の私的領域に利用し、開放的な空間をつくりながら、過度な視線の交錯を避けている(例:平面図及びパースの①～④)。敷地の高低差に合わせて住戸を配置し、共用部にレベル差をつけるなど居場所を緩やかに分節している。

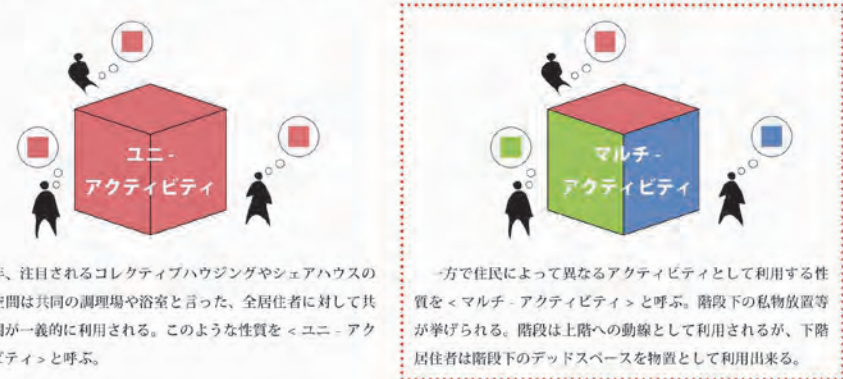






1. UNI or MULTI

時代による世帯構成や技術の変化によって多様化する集合住宅の形式を調査・分類し、共有空間に見られるアクティビティの2種の性質を見出し、<ユニ・アクティビティ (uni-activity)>と<マルチ・アクティビティ (multi-activity)>と名付けた。



2. site



3. SITE-PLAN



MULTI-ACTIVITY





2021年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計関連科目担当教員リスト (五十音順)  
The list of professor taking charge of the subject about a design '21

4年生2学期 卒業設計	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 岡本 浩一 Koichi Okamoto 米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授 工学部建築学科教授 工学部建築学科教授
1年生1学期 造形演習Ⅰ	原井 憲二 Kenji Harai  非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授  造形作家
1年生2学期 造形演習Ⅱ	原井 憲二 Kenji Harai  非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授  造形作家
2年生1学期 空間デザイン演習基礎	岡本 浩一 Koichi Okamoto  非常勤講師 伊藤 千織 Chiori Ito 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授  伊藤千織デザイン事務所 高木貴間建築設計事務所
2年生2学期 空間デザイン演習Ⅰ	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi  非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 臼井 巧 Takumi Usui 大坂美保子 Mihoko Osaka 小倉 寛征 Hiroyuki Ogura 佐々木タ介 Yusuke Sasaki 佐野 天彦 Takahiko Sano	工学部建築学科教授  石塚和彦アトリエ office for design アーキラボ・ティアンドエム Sa design office gl/建築設計事務所ジーエル アトリエサノ
3年生1学期 空間デザイン演習Ⅱ	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi  非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 大島 亘 Wataru Oshima 海藤裕司 Yuji Kaito 竹林正彦 Masahiko Takebayashi 堀尾 浩 Hiroshi Horio 村國 健 Takeshi Murakuni 吉本考臣 Takaomi Yoshimoto	工学部建築学科教授  アカサカシンイチロウアトリエ アトリエオンドー級建築士事務所 日本設計札幌支社 日本設計札幌支社 堀尾浩建築設計事務所 アトリエブク 吉本考臣建築設計事務所
3年生1学期 建築デザイン論	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
3年生2学期 空間デザイン演習Ⅲ	米田 浩志 Hiroshi Yoneta  非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授  アカサカシンイチロウアトリエ 高木貴間建築設計事務所
4年生1学期 空間デザイン演習Ⅳ	米田 浩志 Hiroshi Yoneta  非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 濱口 芳郎 Yoshiro Hamaguchi	工学部建築学科教授  石塚和彦アトリエ 北海道日建設計

※科目の順番は作品掲載順による

2021年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集 第28号  
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '21 vol.28

発行日/2022年10月1日

発行/北海学園大学工学部建築学科  
編集責任者/米田浩志  
〒064-0926  
札幌市中央区南26条西11丁目  
TEL: 011-841-1161  
FAX: 011-551-2951  
URL: eng.hgu.jp/arc

編集・デザイン/エイチエス株式会社  
〒064-0822  
札幌市中央区北2条西20丁目1-12 佐々木ビル  
TEL: 011-792-7130  
FAX: 011-613-3700